

令和4年度第3回森町地域公共交通会議 次第

日時：令和5年3月6日(月) 14:00～

場所：森町町民生活センター2階 集会室

1 開 会

2 会長挨拶

3 協議事項

(1) 森町地域公共交通法定計画の策定（令和4年度事業報告）について

資料1

(2) 令和5年度森町地域公共交通会議事業計画案について

資料2

4 報告事項

(1) 秋葉線（秋葉バス）の順路変更について

資料3

(2) 夢街道線（三倉地区児童生徒無料送迎バス）一般利用の試験運行について

資料4

5 その他

6 閉 会

改正

平成23年3月28日告示第99号

平成29年11月24日告示第87号

令和3年11月22日告示第154号

森町地域公共交通会議要綱

(設置)

第1条 道路運送法（昭和26年法律第183号）及び地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号。以下「活性化再生法」という。）の規定に基づき、地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客運送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項並びに地域公共交通計画（以下「交通計画」という。）の作成、変更及び実施に関し必要となる事項を協議するため、森町に、森町地域公共交通会議（以下「会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 会議は、次に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃、料金等に関すること。
- (2) 自家用有償旅客運送の必要性及び旅客から収受する対価に関すること。
- (3) 活性化再生法の規定に基づく交通計画の作成、変更及び実施に関すること。
- (4) 会議の運営方法その他会議が必要と認める事項に関すること。
- (5) その他法令の規定によりその権限に属させられた事項を処理すること。

(組織)

第3条 会議は、会長及び委員25人以内をもって組織する。

(委員の任命)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから、町長が任命する。

- (1) 一般乗合旅客自動車運送事業者の役員又は職員
- (2) 一般乗用旅客自動車運送事業者の役員又は職員
- (3) 住民又は利用者の代表
- (4) 国土交通省中部運輸局静岡運輸支局長又はその指名する者
- (5) 静岡県袋井土木事務所長又はその指名する者

- (6) 静岡県袋井警察署長又はその指名する者
- (7) 森町社会福祉協議会会長又はその指名する者
- (8) 学識経験のある者その他会議が必要と認める者
- (9) 前各号に掲げるもののほか、会長が特に必要と認める者
(委員の任期等)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び監事)

第6条 会議に会長1人及び監事2人を置く。

2 会長は、町長をもって充てる。

3 会長は、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

5 監事は、会長が指名する。

6 監事は、会議の監査事務を行う。

(議事)

第7条 会議は、会長及び委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 委員は、都合により会議を欠席する場合、代理の者を出席させることができるものとし、あらかじめ会長に代理の者の氏名等を報告することにより、その代理の者の出席をもって当該委員の出席とみなす。

3 会議の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 会長に事故がある場合の前項の規定の適用については、前条第4項に規定する委員は、会長とみなす。

5 会議は、簡易な議事については書面による開催とすることができるものとする。

6 会議は、これを公開しなければならない。ただし、事業者の事業上の秘密を保つため必要があると認めるとき、又は公益上必要があると認めるときは、これを公開しないことができる。

(協議の結果の尊重)

第8条 会議において協議が調った事項については、会議の構成員は、その協議の結果を尊重しなければならない。

(庶務)

第9条 会議の庶務は、企画財政課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公示の日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 この告示の施行後最初に任命される委員の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則 (平成23年3月28日告示第99号)

この告示は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成29年11月24日告示第87号)

この告示は、公示の日から施行する。

附 則 (令和3年11月22日告示第154号)

この告示は、公示の日から施行する。

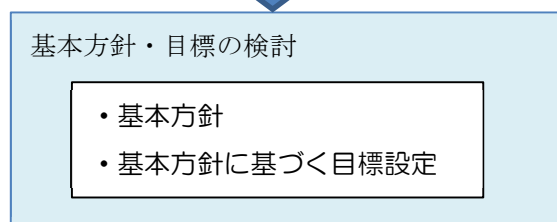
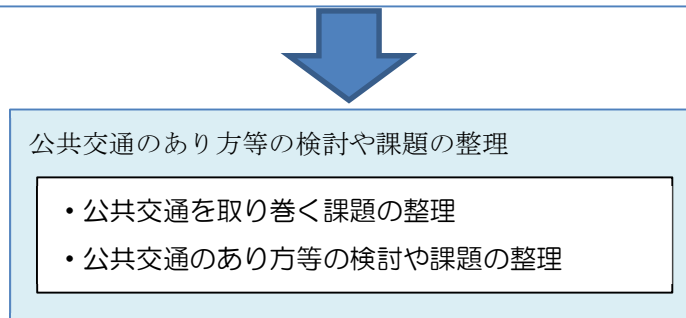
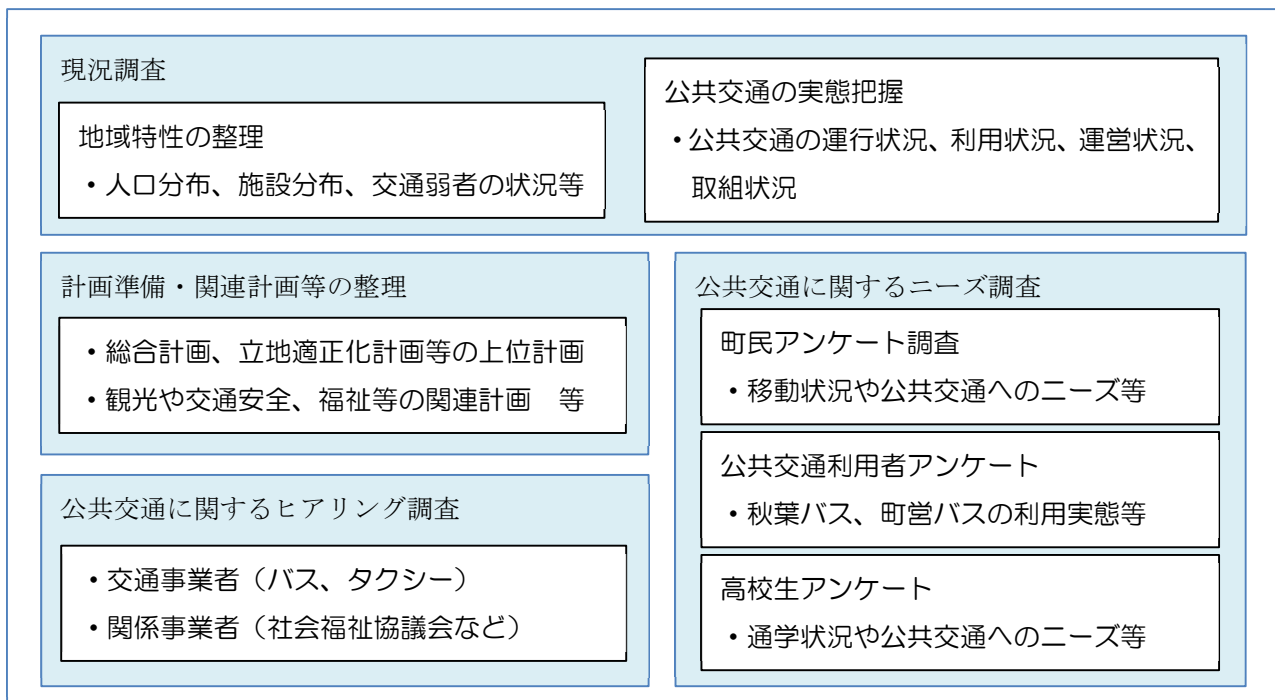
森町地域公共交通法定計画の策定について

令和4年度計画策定調査事業 事業報告

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 令和4年度事業 業務フロー | 1 |
| 森町地域公共交通法定計画の位置づけ等 | 2 |
| 1.1 計画の位置づけ | 2 |
| 1.2 上位・関連・広域計画における公共交通の位置づけ | 2 |
| 1.3 計画の対象 | 3 |
| 1.4 計画の期間 | 3 |
| 公共交通を取り巻く現状と課題 | 4 |
| 1. 地域特性の整理 | 4 |
| 1.1 位置等 | 4 |
| 1.2 人口動態 | 5 |
| 1.3 通勤・通学流動 | 10 |
| 1.4 観光流動 | 12 |
| 1.5 自家用車の保有状況 | 13 |
| 1.6 施設の立地状況 | 14 |
| 2. 公共交通の実態把握 | 16 |
| 2.1 公共交通の状況 | 16 |
| 2.2 公共交通空白地域の状況 | 27 |
| 3. 公共交通に関するニーズ・ヒアリング調査 | 28 |
| 3.1 アンケート調査 | 28 |
| 3.1.1 町民アンケート | 28 |
| 3.1.2 公共交通利用者アンケート | 30 |
| 3.1.3 高校生アンケート | 31 |
| 3.2 事業者ヒアリングのとりまとめ | 33 |
| 3.2.1 交通事業者ヒアリング | 33 |
| 3.2.2 関係事業者ヒアリング | 34 |
| 4. 公共交通を取り巻く現状・課題の整理 | 36 |
| 公共交通のあり方等の検討や課題の整理 | 37 |
| 基本方針と目標 | 37 |

令和4年度事業 業務フロー



令和5年度予定事業

- 【令和5年度の業務内容】
- 森町の地域公共交通ネットワークの方向性検討
 - 目標を達成するために行う事業及びその実施主体の検討
 - 評価指標と計画の進行管理の検討
 - パブリックの実施
 - 計画のとりまとめ など

森町地域公共交通法定計画の位置づけ等

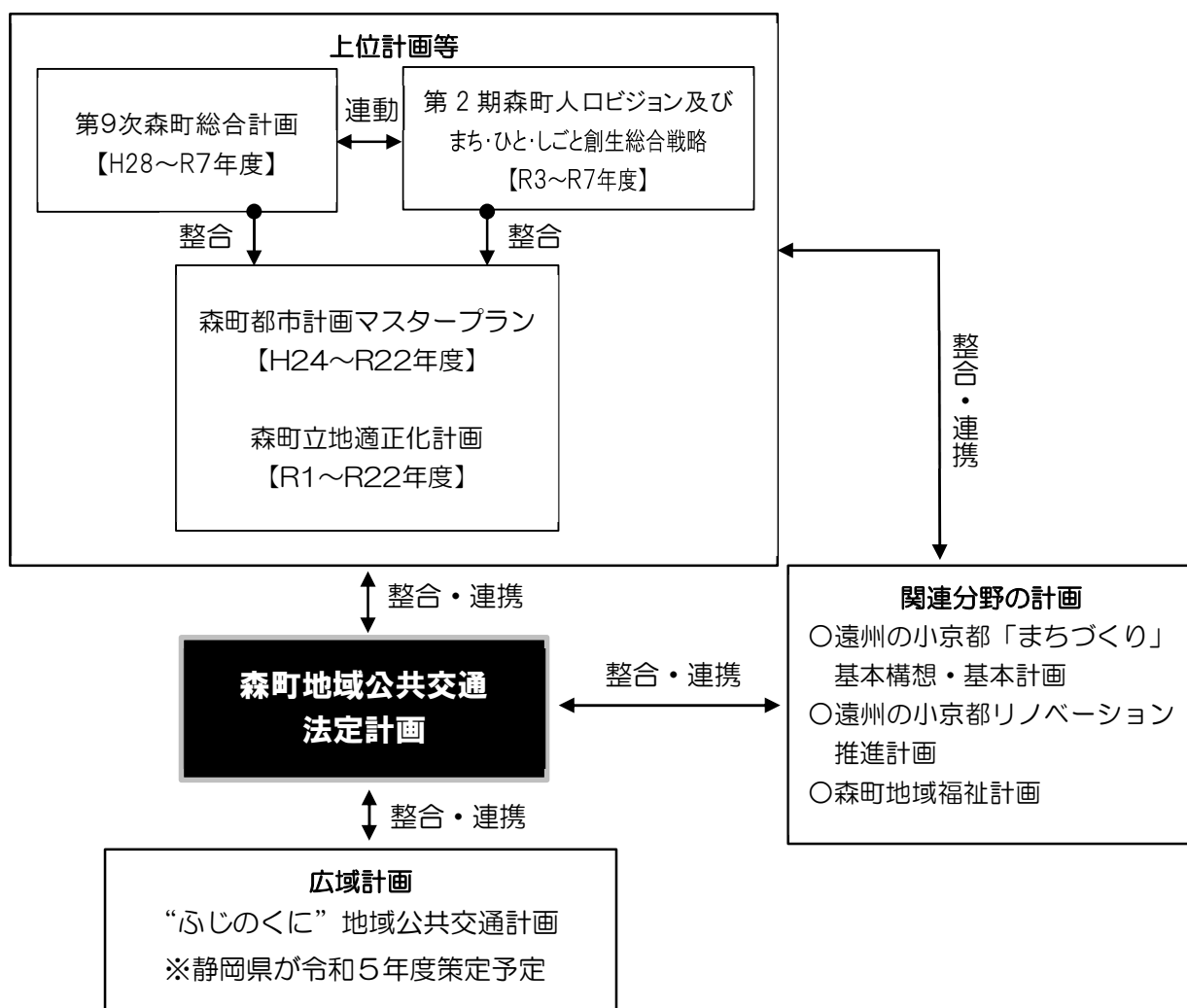
1.1 計画の位置づけ

本計画は、町の最上位計画である「第9次森町総合計画」との整合を図るとともに、「森町都市計画マスタープラン」や「森町立地適正化計画」などの計画についても、整合や連携を図り、地域公共交通を取り巻く課題を解決するための、公共交通政策のマスタープランとして策定します。

1.2 上位・関連・広域計画における公共交通の位置づけ

本町の公共交通に係わる上位・関連・広域計画の位置づけ、施策・プロジェクトを整理し、政策連携を検討する上での基礎資料としました。整理した計画は次のとおりとなります。

各計画、施策・プロジェクトとの整合を図り、まちづくりと連携した施策・事業推進を検討します。



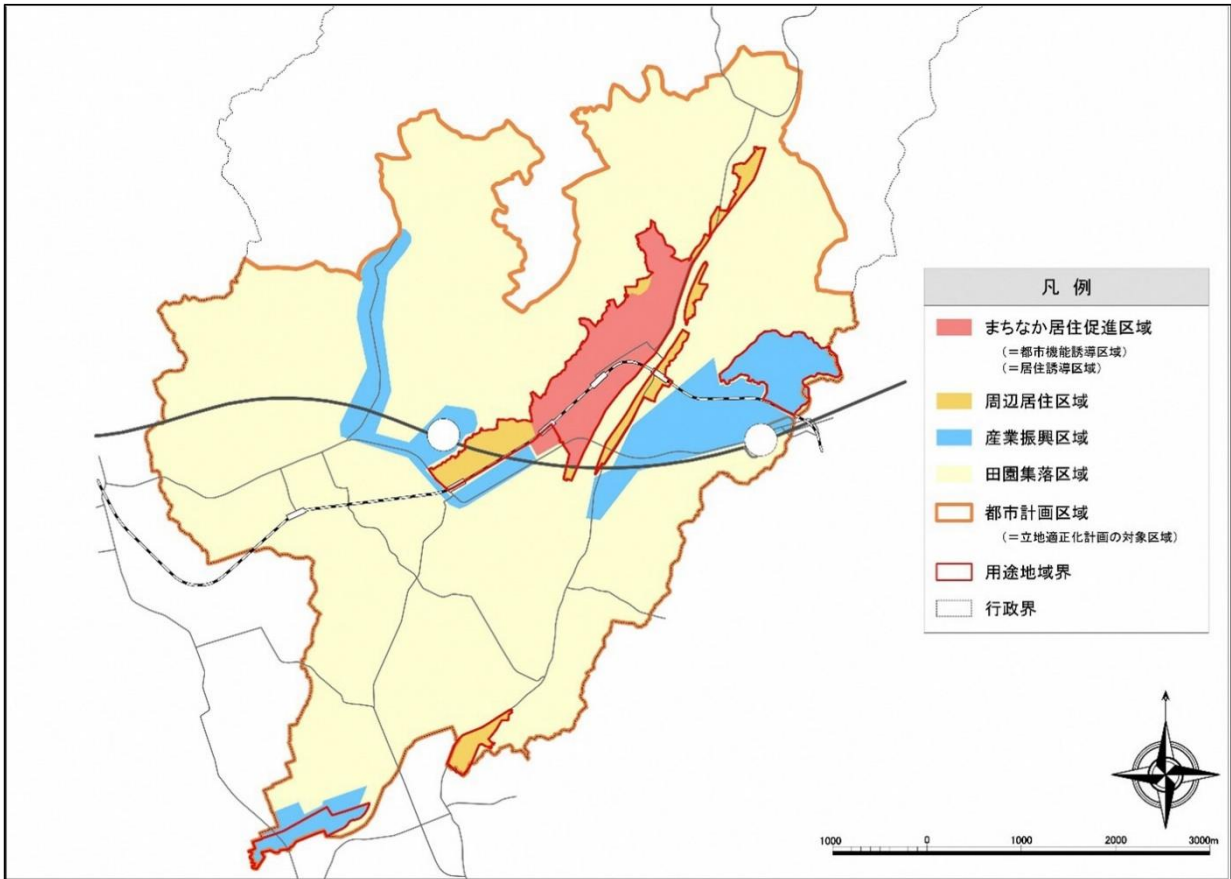


図 立地適正化計画に係る区域設定図

資料：森町立地適正化計画

1.3 計画の対象

本計画の対象区域は、森町全域とします。

1.4 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和10年度の5年間とします。

なお、計画の期間内においても、今後の社会情勢などの変化や関連計画の見直しなどに適応するよう、必要に応じて計画の見直し・修正を行います。

公共交通を取り巻く現状と課題

1. 地域特性の整理

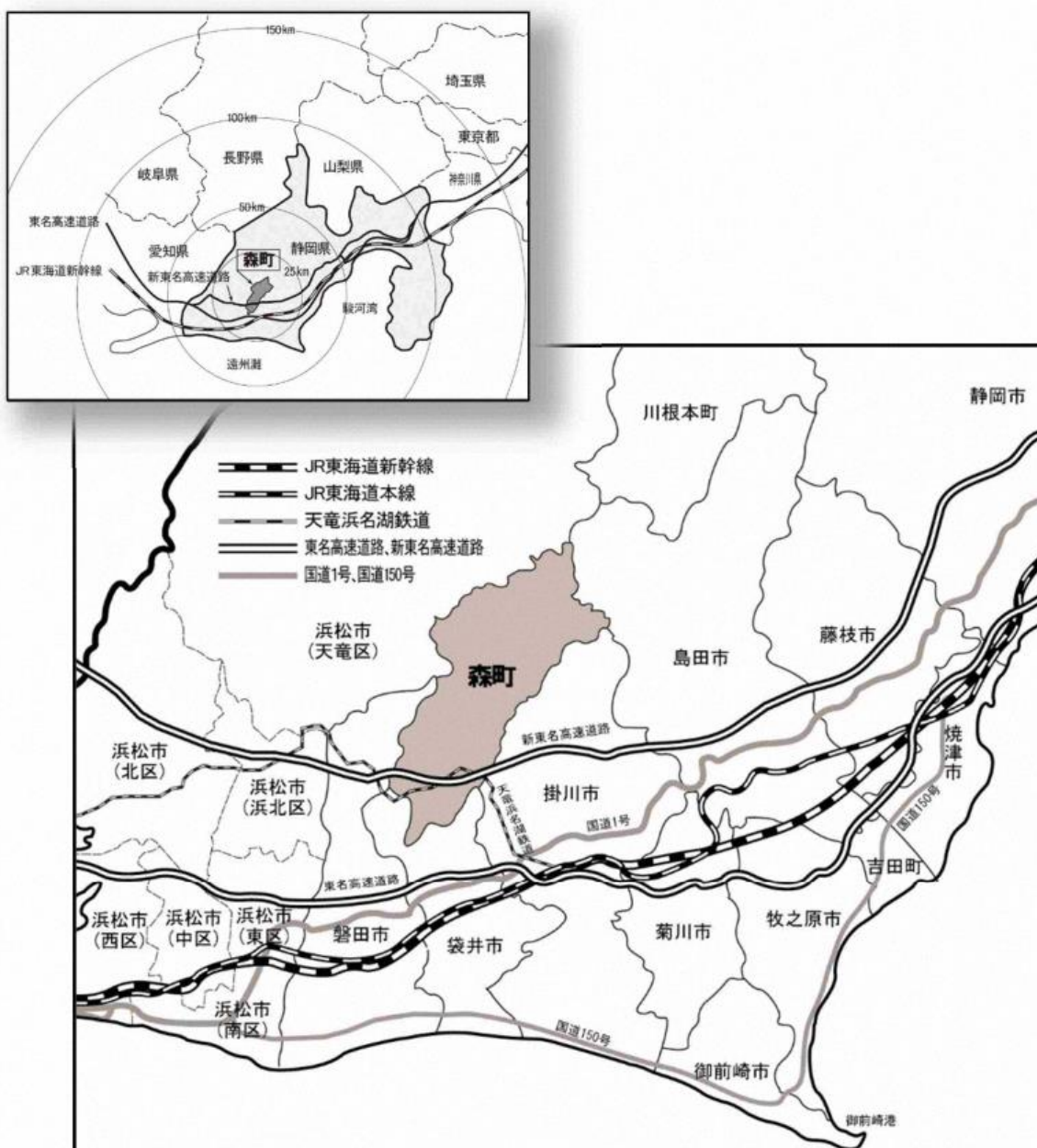
1.1 位置等

本町は、静岡県西部の中東遠地域北部に位置し、北西は浜松市天竜区、南西は磐田市、北東は島田市、南東は掛川市、南は袋井市と接している。

町域は東西約 13 km、南北約 24 kmと南北に長く、面積は 133.91 km²となっている。

静岡市から約 60 km、浜松市から約 25 kmに位置している。

地形は赤石山脈に属し、町域の約 70%を山林が占めている。二級河川太田川が町を南北に流れ、町中心部から南部にかけて太田川流域に平野部が広がり、市街地や田園を形成している。町北部の山間部には、河川沿いの限られた山あいの平坦地に集落地が点在している。



1.2 人口動態

(1) 人口推移および人口推計

本町の人口は減少傾向にあり、令和2年では17,457人となっている。

国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、2045年には12,636人まで減少（約3割減）することが予測されている。加えて、75歳以上人口の割合は増加する見込みである。

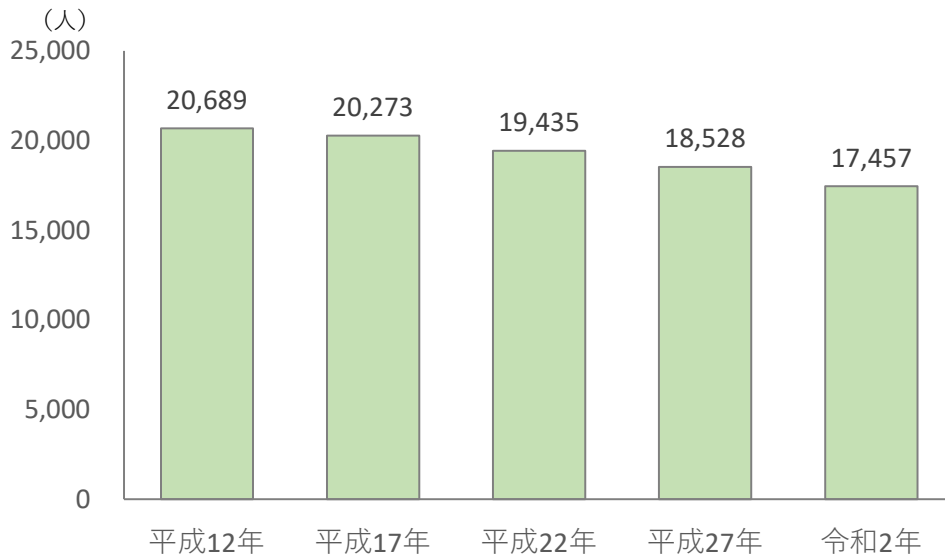


図 人口推移

資料：国勢調査

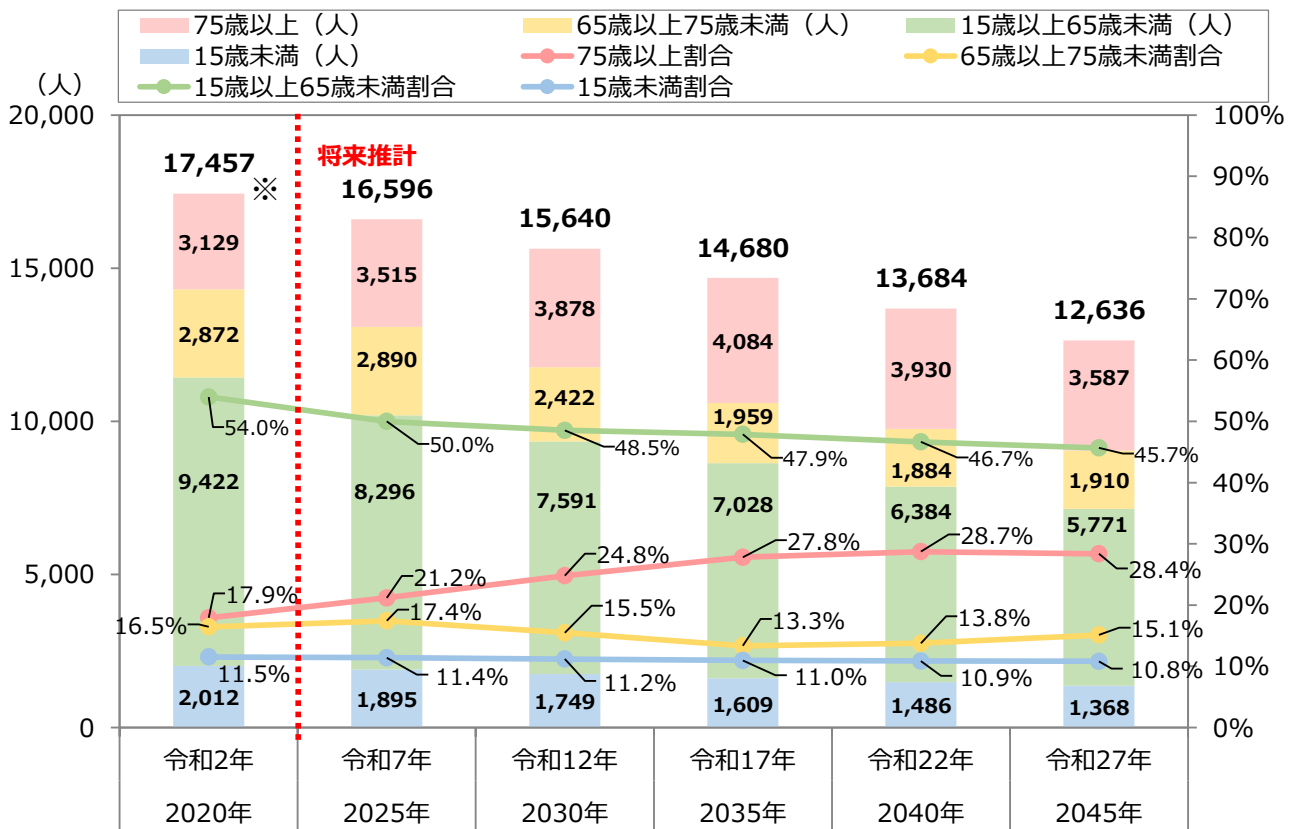


図 将来人口推計

※令和2年は不詳補完値のため、各年代の合計と総人口は一致しない

資料：令和2年は国勢調査、令和7年以降は平成30年国立社会保障・人口問題研究所の推計値

(2) 年齢別人口

年齢別人口を見ると、65歳以上の人口は増加傾向にあり、令和2年では6,203人、割合で見ると34.50%となっている。

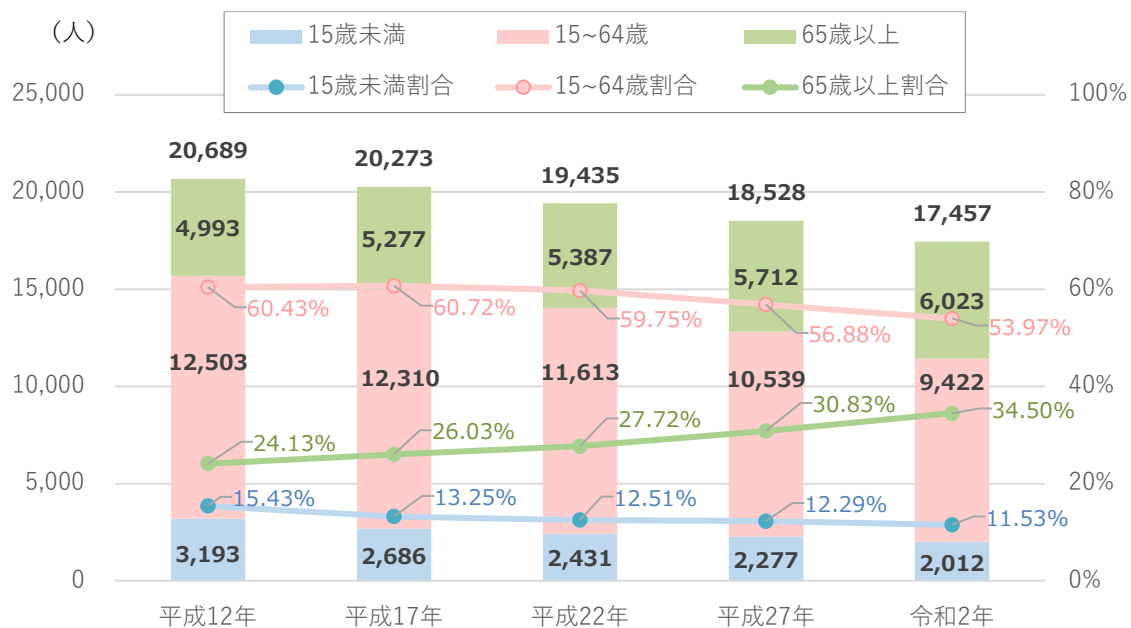


図 年齢別人口

資料：国勢調査

(3) 地区別人口

地区別人口を見ると、令和2年で森地区が6,548人と最も多く、森地区に最も人口が集中している。次いで、園田地区、飯田地区にも一定程度の人口集中がみられる。

一方で、山間部の三倉地区や天方地区では、人口が600人～1,000人程度と比較的少なくなっており、減少率も大きい。

表 地区別人口

| 地区 | 人口 | | | | | 増減率 H12-R2 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | |
| 森地区 | 7,648 | 7,663 | 7,193 | 6,876 | 6,548 | -14.4% |
| 一宮地区 | 1,991 | 1,905 | 1,891 | 1,869 | 1,779 | -10.6% |
| 園田地区 | 4,018 | 3,920 | 3,951 | 3,823 | 3,647 | -9.2% |
| 飯田地区 | 4,272 | 4,249 | 4,122 | 3,966 | 3,789 | -11.3% |
| 三倉地区 | 1,239 | 1,072 | 943 | 801 | 661 | -46.7% |
| 天方地区 | 1,521 | 1,464 | 1,335 | 1,193 | 1,033 | -32.1% |

資料：国勢調査（小地域集計）

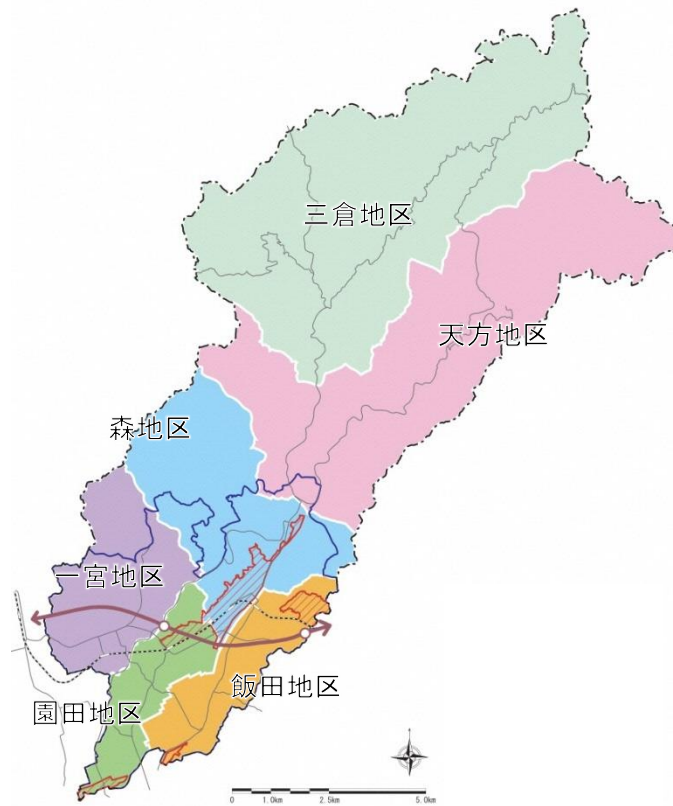


図 地区区分図

資料：都市計画マスタープラン

(4) 人口分布

人口分布を見ると、町内の南側に人口が集中しており、特に中心拠点である遠州森駅周辺に人口集積がみられる。

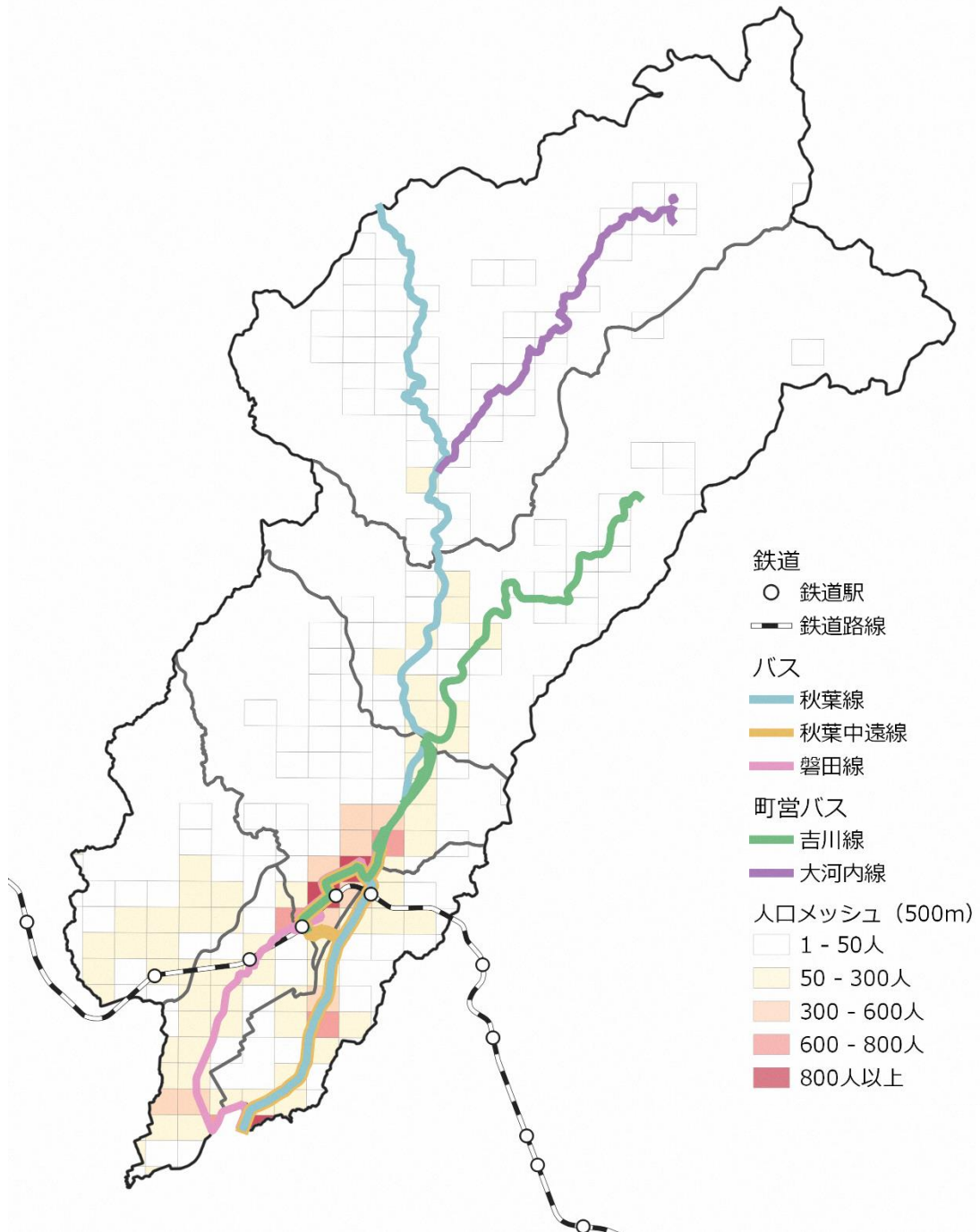


図 人口分布

(5) 世帯数

世帯数は増加傾向にあり、令和2年で6,235世帯と、平成27年と比べて約100世帯増加している。一方、一世帯当たりの人口はゆるやかな減少傾向にあり、令和4年で2.80人/世帯となっている。

高齢単身世帯数をみると、増加傾向にあり、令和2年時点で705世帯となっていることから、今後、公共交通サービスの必要性は高まることが考えられる。

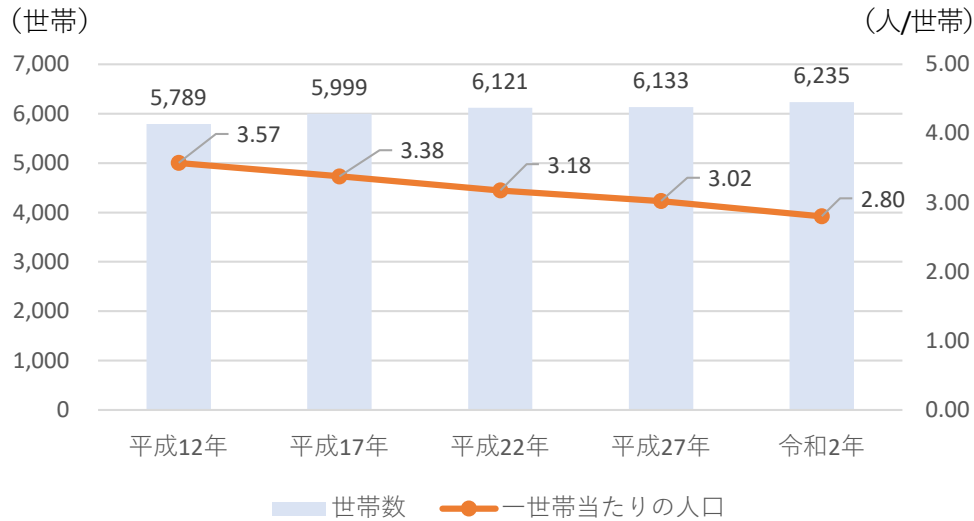


図 世帯数

資料：国勢調査

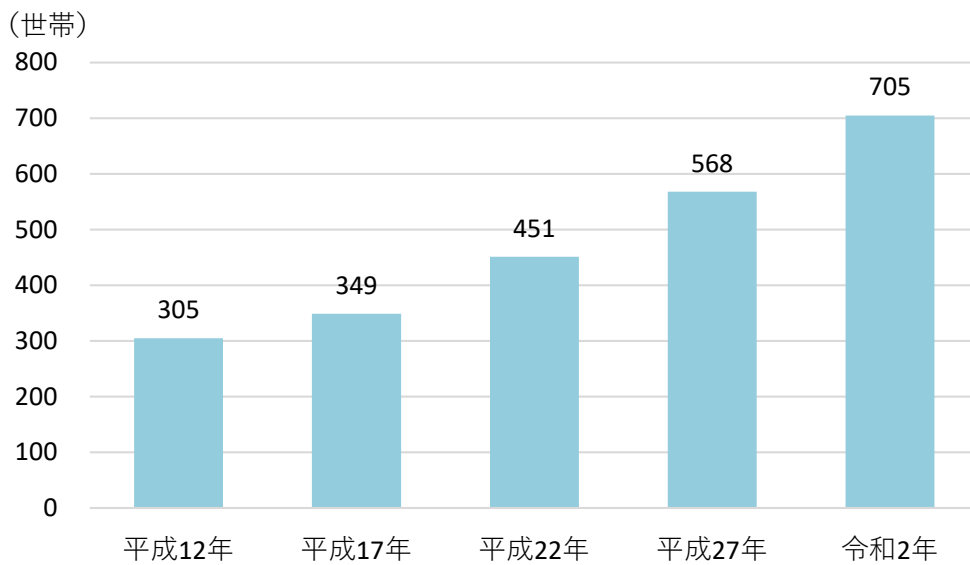


図 高齢単身世帯数

資料：国勢調査

1.3 通勤・通学流動

(1) 通勤流動

通勤流動を見ると、森町内での通勤（4,478人）が最も多い。町外の流動は、袋井市（3,503人）・磐田市（2,261人）・掛川市（1,932人）・浜松市（1,755人）の流動が多い。

平成27年の流動と比較すると、大きな変化は見られない。

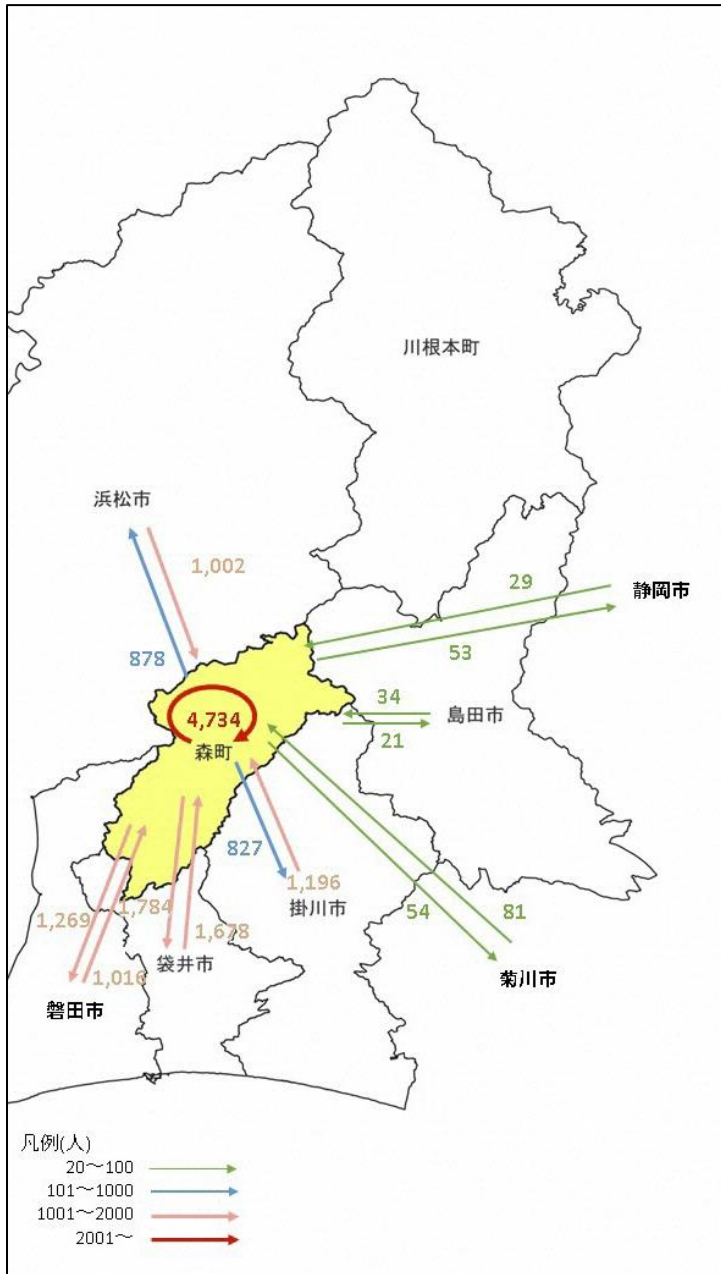


図 通勤流動（平成27年）
（※20人以上）

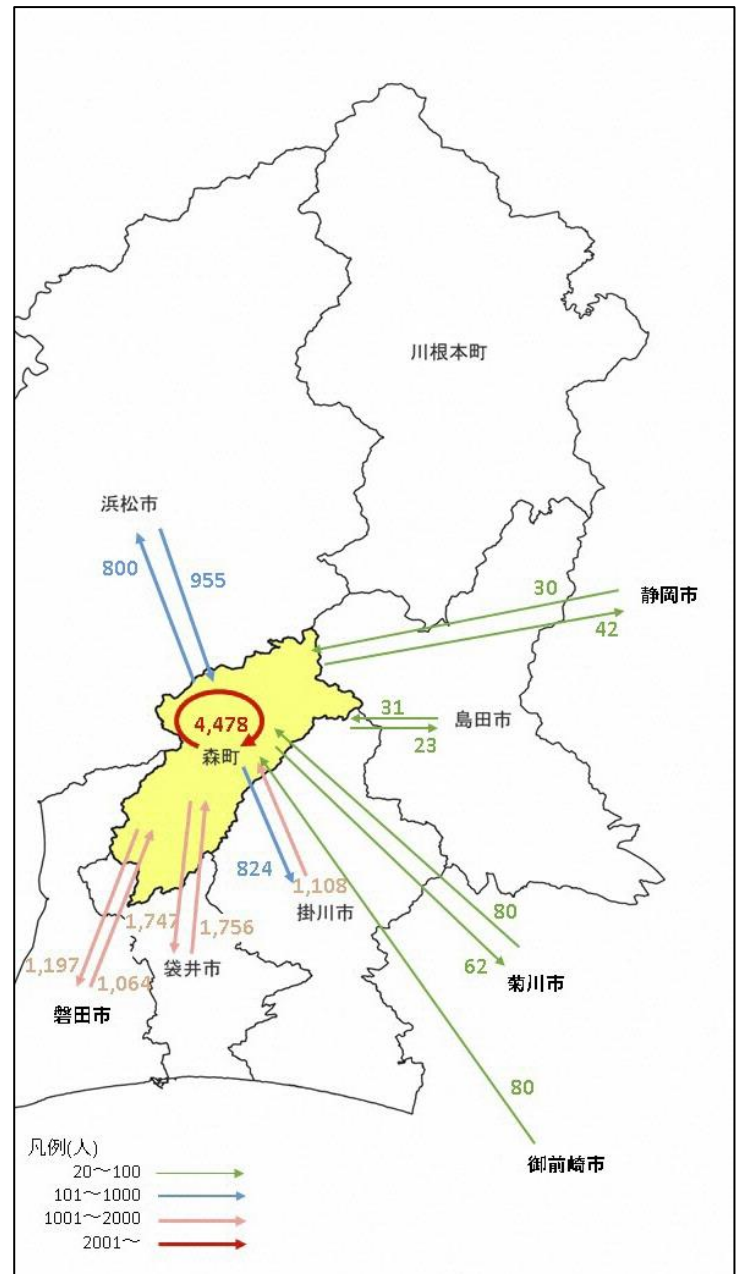


図 通勤流動（令和2年）
（※20人以上）

資料：国勢調査

(2) 通学流動

通学流動を見ると、袋井市（290人）、掛川市（240）、森町内（207人）の通学が多く、浜松市（128人）との流動も多く見られる。

平成27年の流動と比べると、大きな変化は見られない。

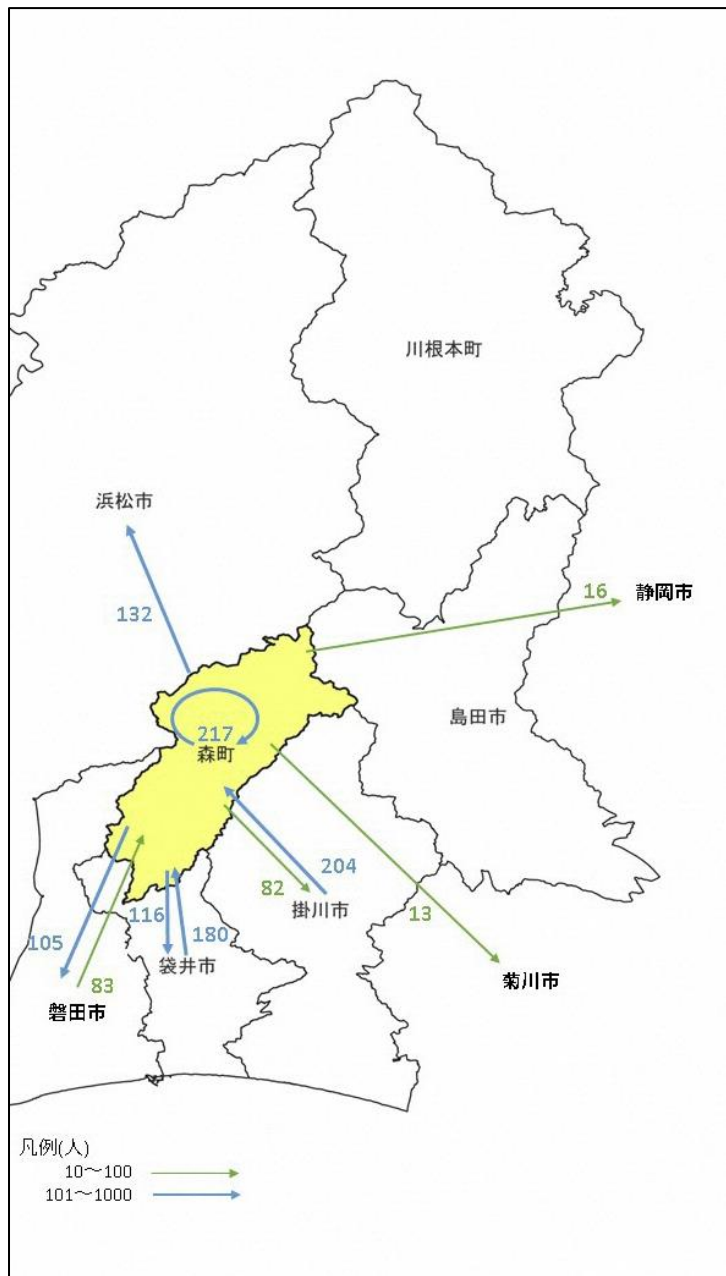


図 通学流動（平成27年）
（※10人以上）

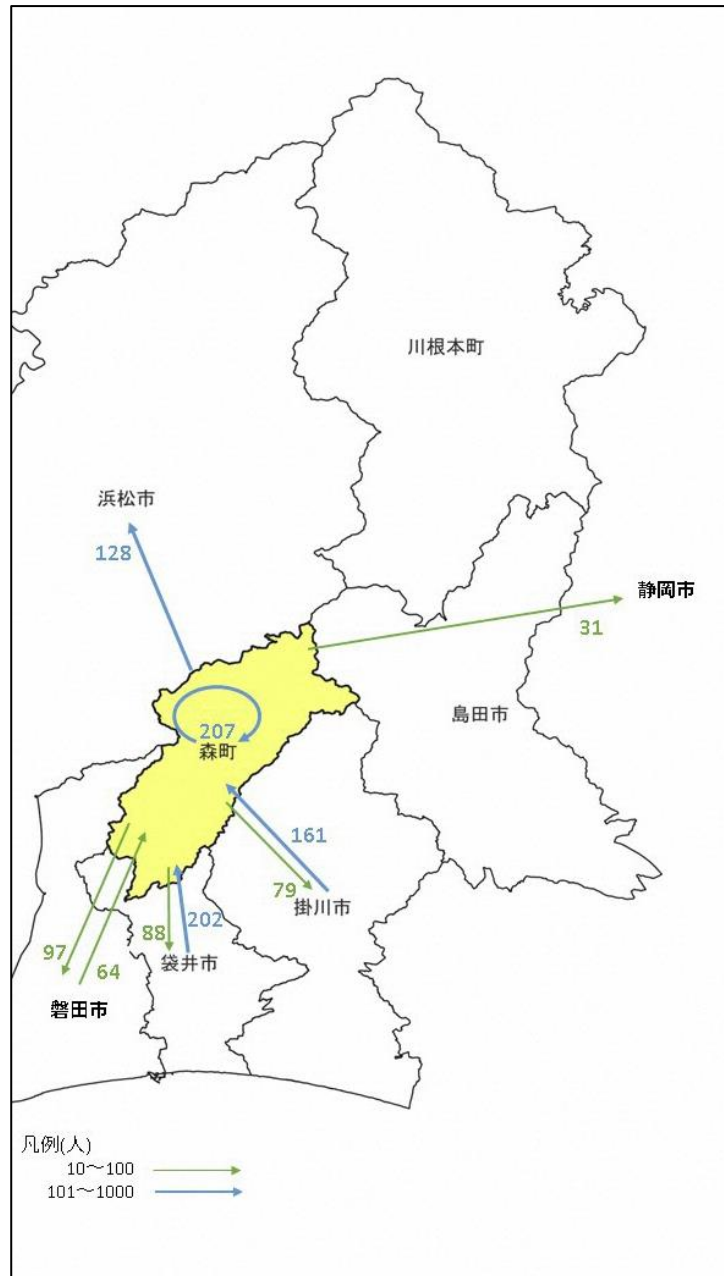


図 通学流動（令和2年）
（※10人以上）

資料：国勢調査

1.4 観光流動

(1) 観光入込客数の推移

観光入込客数をみると、令和元年度まではおおむね横ばいに推移しているが、令和元年度から令和2年度にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1,059,000人から591,000人と大きく減少している。

新型コロナウイルス感染症流行前は、約110万人程度を推移している。

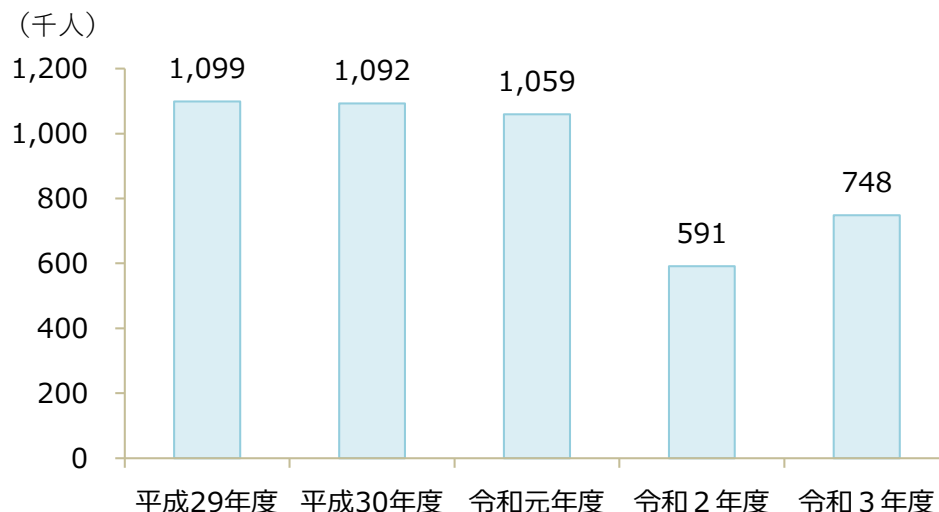


図 観光入込客数

資料：町提供資料

(2) 施設別観光入込客数

施設別観光入込客数をみると、「小國神社」が最も多い。その他には、「アクティ森」「極楽寺」への来訪も見られる。

表 施設別観光入込客数

| 施設名/年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 極楽寺 | 19,550 | 19,650 | 18,650 | 14,550 | 13,450 |
| 小國神社 | 861,000 | 861,000 | 860,000 | 520,000 | 665,000 |
| 大洞院 | 16,100 | 12,100 | 11,200 | 3,690 | 3,000 |
| 蓮華寺 | 13,900 | 15,250 | 15,250 | 8,520 | 8,850 |
| アクティ森 | 84,148 | 77,940 | 75,343 | 33,289 | 39,745 |
| 香勝寺 | 15,770 | 19,410 | 10,080 | 5,615 | 5,985 |
| 歴史民俗資料館 | 2,917 | 2,359 | 2,606 | 2,076 | 2,198 |

資料：町提供資料

1.5 自家用車の保有状況

(1) 自家用車の保有台数

自家用車の保有台数は概ね横ばいであり、令和4年時点では11,427台となっている。
令和4年時点の1世帯当たりの保有台数は1.84台であり、県内市町で1位と高い状況である。

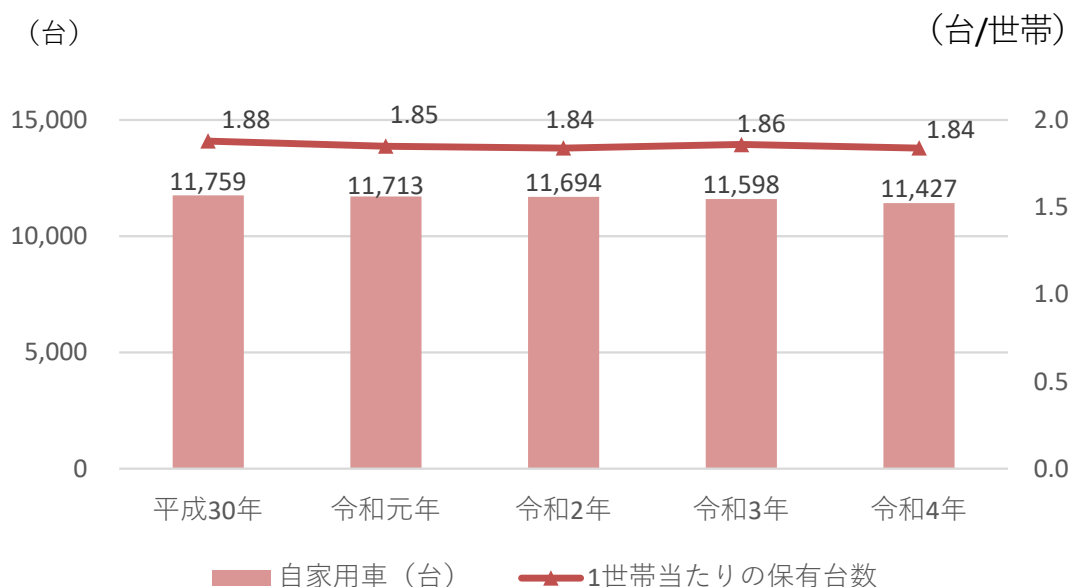


図 自家用車保有台数

資料：静岡県自動車保有台数調査

(2) 運転免許の保有数

運転免許の保有数は、全体で12,568人であり、そのうち65歳以上の高齢者は4,254人となっており、免許保有者の3分の1以上が65歳以上の高齢者となっている。

表 運転免許の保有数

| 全体 (人) | 男女別内訳 | | その内65歳以上の高齢者 | | |
|--------|-------|-------|--------------|-------|-------|
| | 男 | 女 | 全体 | 男 | 女 |
| 12,568 | 6,681 | 5,887 | 4,254 | 2,334 | 1,920 |

資料：町提供資料（令和4年8月1日現在）

1.6 施設の立地状況

生活関連施設（商業・医療・公共）は、特に遠州森駅周辺に集積している。
山間部においては観光施設の立地が多く、商業施設・医療施設は極めて少ない。

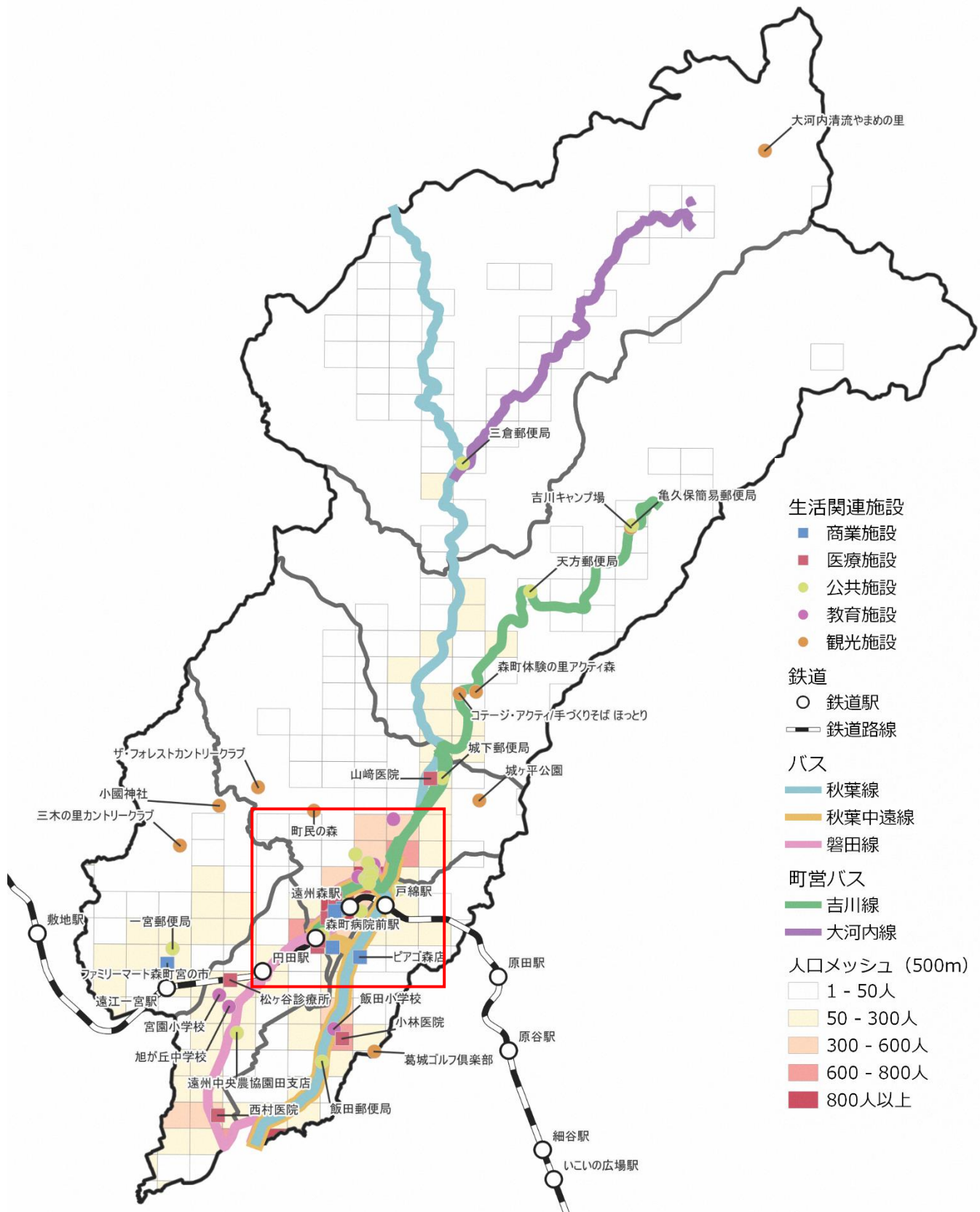


図 施設の立地状況

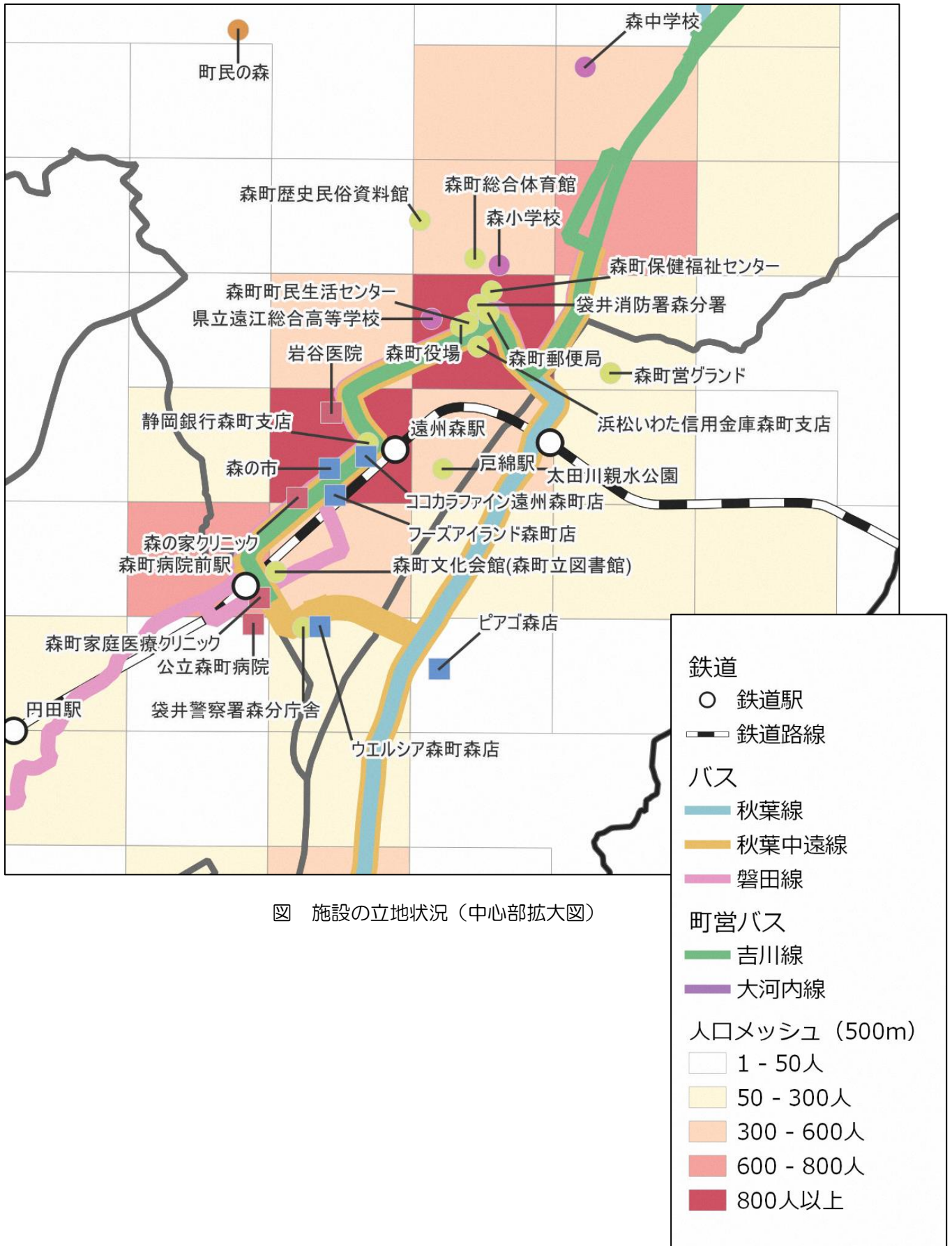


図 施設の立地状況 (中心部拡大図)

2. 公共交通の実態把握

2.1. 町内公共交通の運行状況

(1) 公共交通ネットワーク

鉄道は、天竜浜名湖鉄道(株)により、天竜浜名湖線が運行されており、町内には戸綿駅、遠州森駅、森町病院前駅、円田駅、遠江一宮駅の5駅が設置されている。

民間路線バスは、秋葉バスサービス(株)により、秋葉線、秋葉中遠線の2路線が運行されている。

自主運行バスは、事業者撤退路線を引き継ぎ、磐田線、大河内線、吉川線の3路線を運行している。そのうち、大河内線・吉川線は町営バス、磐田線は磐田市・袋井市との共同のもと、秋葉バスサービス(株)により運行されている。

患者バスは、町が無医地区の住民の医療の確保を図ることを目的に、大河内線、大久保線、一宮線を運行している。

その他、森移動支援調整センターで、町民が自家用車を用いて運転手となるボランティア移動支援が令和元年度4月より町全域で実施されている。

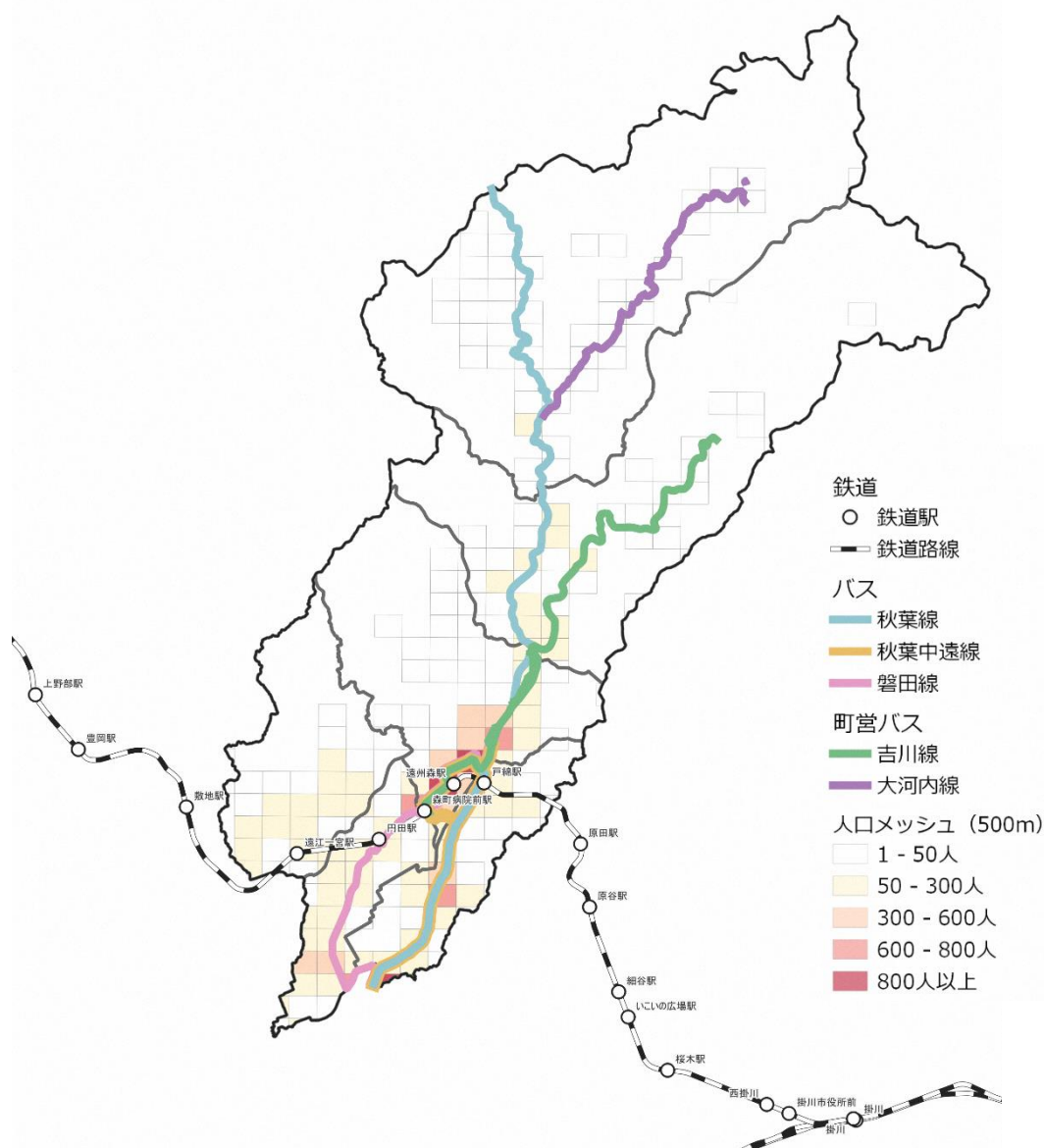


図 公共交通ネットワーク

(2) 運行状況

鉄道は天竜浜名湖鉄道㈱により、天竜浜名湖線が運行されている。

民間路線バスは、秋葉バスサービス㈱により、秋葉線、秋葉中遠線の2路線が運行されている。

自主運行バスは、大河内線と吉川線は町営バス、磐田線は磐田市・袋井市との共同のもと、秋葉バスサービス㈱により運行されている。

患者バスは、森町病院により、大河内線、大久保線、一宮線が運行されている。

タクシーは、令和4年度にタクシー事業者が1社廃業したため、町内に営業所はないものの、袋井タクシー、袋井交通、掛川タクシー、遠鉄タクシーにより運行されている。

ボランティア移動支援は、運転手として15名が登録されている(令和4年11月1日現在)。

表 路線一覧

| 運行体系 | 事業者等 | 路線名 | 運賃 | 区間 |
|------------------|--|--------|----------------------------|--------------|
| 鉄道 | 天竜浜名湖鉄道株式会社 | 天竜浜名湖線 | 対距離制 | 掛川駅～新所原駅 |
| 民間 路線バス | 秋葉バスサービス㈱ | 秋葉線 | 対距離制 | 袋井駅前～気多 |
| | | 秋葉中遠線 | 対距離制 | 大東支所～遠州森町 |
| 自主運行バス (町営バス) | 森町 (㈱アマガタ) | 吉川線 | 大人200円 小人100円 幼児100円 | ①落合～元開橋 |
| | | | 大人200円 小人100円 幼児100円 | ②元開橋～森町病院 |
| | 森町 (NPO法人やまゆり三倉) | 大河内線 | 大人200円 小人100円 幼児100円 | 森林組合前～下島 |
| 自主運行 バス | 森町・磐田市・袋井市 (秋葉バスサービス㈱) | 磐田線 | 対距離制 | 遠州森町～磐田駅前 |
| 患者バス | 森町 (森町病院) | 大河内線 | 無償 | 大河内～森町病院 |
| | | 大久保線 | 無償 | 田能～森町病院 |
| | | 一宮線 | 無償 | 伏間(三叉路)～森町病院 |
| タクシー | 袋井タクシー(株) 袋井交通(株) 掛川タクシー(株) 遠鉄タクシー(株) | - | 対距離制 | 町内全域 |
| ボランティア 移動支援 | もり移動支援調整センター (森町社会福祉協議会) 運転手は一般ボランティア | - | 無償 | 町内全域 |

(3) 利用状況

全体の利用者数の推移をみると、年度ごとに増減はみられるものの、民間路線バス、患者バスは減少傾向にあり、自主運行バスは増加傾向にある。

これらのうち、令和元年度から令和2年度については新型コロナウイルス感染症拡大による減少要因や令和2年度に町内の中学校、令和3年度に町内の小学校の学校統廃合によるバス通学利用者の増加要因がある。

利用者数が最も多いのは秋葉中遠線であり、令和3年度で183,168人となっており、次いで秋葉線の79,191人である。一方、利用者数が最も少ないのは患者バス一宮線であり、令和3年で5人となっている。

平成29年度から令和3年度の増減率を見ると、最も増加しているのは町営バス大河内線の131.44%となっている。一方、患者バスは減少が大きく、中でも一宮線では-93.06%となっている。

表 年度別利用者数の推移

| 区分 | 路線名 | 利用人数（人） | | | | | H29-R3の増減率 |
|------------------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|------------|
| | | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
| 民間路線バス | 秋葉線 | 101,760 | 95,633 | 87,146 | 78,480 | 79,191 | -22.18% |
| | 秋葉中遠線 | 236,678 | 245,677 | 260,872 | 198,635 | 183,168 | -22.61% |
| 自主運行バス (町営バス) | 吉川線 | 3,661 | 3,603 | 3,704 | 3,353 | 5,552 | 51.65% |
| | 大河内線 | 1,988 | 2,353 | 2,549 | 3,571 | 4,601 | 131.44% |
| 自主運行バス | 磐田線 | 19,593 | 21,050 | 24,334 | 31,427 | 31,082 | 58.64% |
| 患者バス | 大河内線 | 1,066 | 710 | 575 | 513 | 390 | -63.41% |
| | 大久保線 | 1,126 | 991 | 754 | 653 | 583 | -48.22% |
| | 一宮線 | 72 | 70 | 13 | 4 | 5 | -93.06% |

資料：町提供資料

① 鉄道

一日当たりの駅乗降者数を見ると、遠州森駅での利用が令和3年度で582人と最も多く、戸綿駅においても一定程度の利用が見られる。

これらについては、主に遠州森駅は通勤や遠江総合高校への通学、戸綿駅は通勤や通学等に利用されているためと考えられる。

一方で、森町病院前駅、円田駅、遠江一宮駅の乗降者数は少なく100人/日未満となっている。

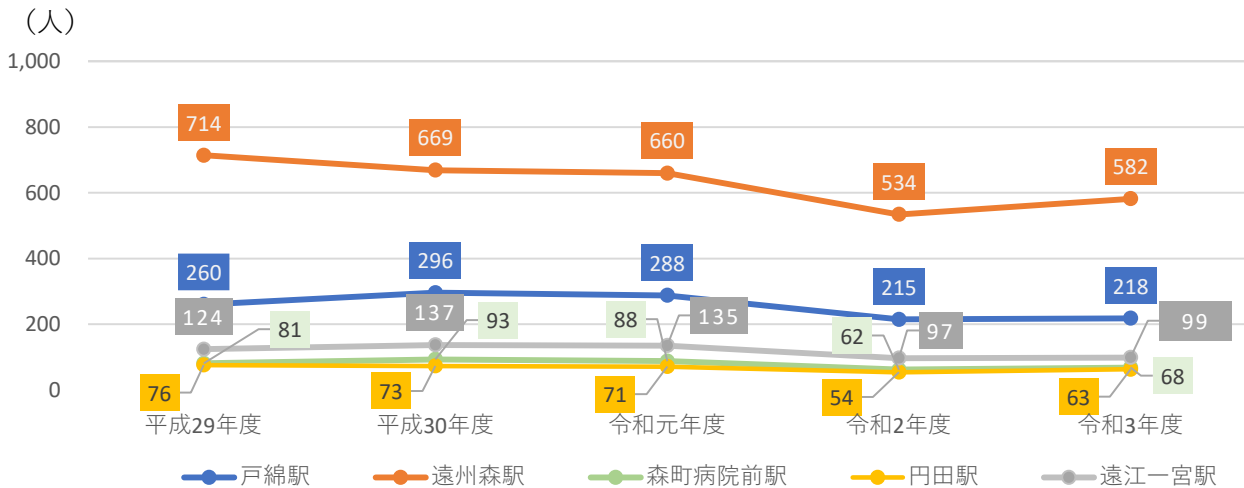


図 一日当たりの駅乗降者数

資料：町提供資料

表 一日当たりの駅乗降者数

| 駅名 | 利用人数（人） | | | | |
|--------|---------|--------|-------|-------|-------|
| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
| 戸綿駅 | 260 | 296 | 288 | 215 | 218 |
| 遠州森駅 | 714 | 669 | 660 | 534 | 582 |
| 森町病院前駅 | 81 | 93 | 88 | 62 | 68 |
| 円田駅 | 76 | 73 | 71 | 54 | 63 |
| 遠江一宮駅 | 124 | 137 | 135 | 97 | 99 |

資料：町提供資料

② 民間路線バス

秋葉中遠線は、令和元年度まで増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度より大きく減少に転じており、令和3年度の利用者は183,168人となっている。ピーク時である令和元年度と現在を比較するとの利用者数は77,704人減少している。

秋葉線は、平成29年度から減少傾向にあり、令和2年度及び令和3年度の小中学校統廃合による増加要因もあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度で79,191人となっている。

秋葉バスサービス(株)では、バスロケーションシステムが導入され、遠州森町バス停ロータリー内では、運行時刻表のデジタルサイネージが設置されている。

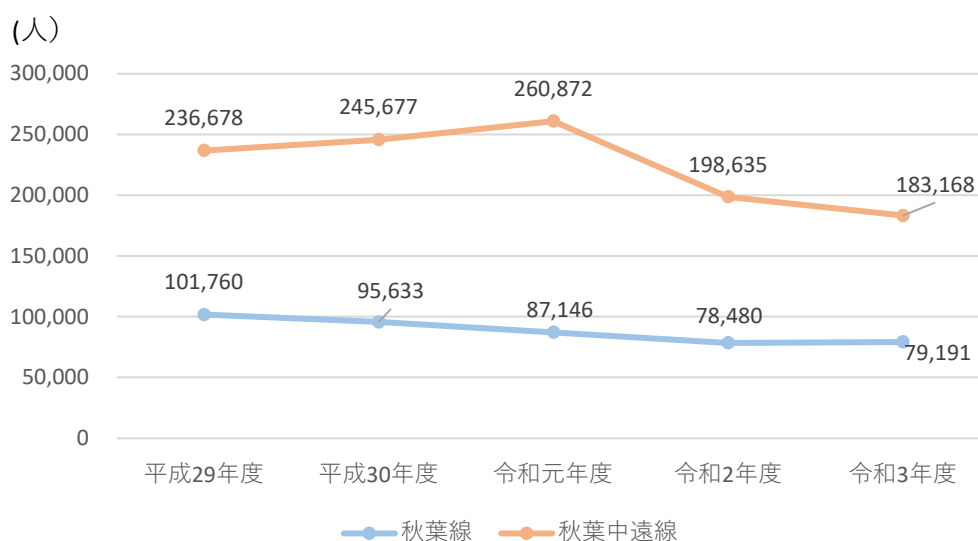


図 利用者数の推移

資料：町提供資料



写真 バスロケーションシステム



写真 デジタルサイネージ

③ 町営バス

a.吉川線

吉川線は、一部デマンド運行の利用者が多く、令和3年度で5,495人となっている。定時運行及び定時デマンド運行は、系統・ダイヤの見直しにより減少している。

令和2年度及び令和3年度の小中学校統廃合によりバス通学の児童生徒が増え、令和3年度の利用者全体の約7割が児童生徒の通学である。

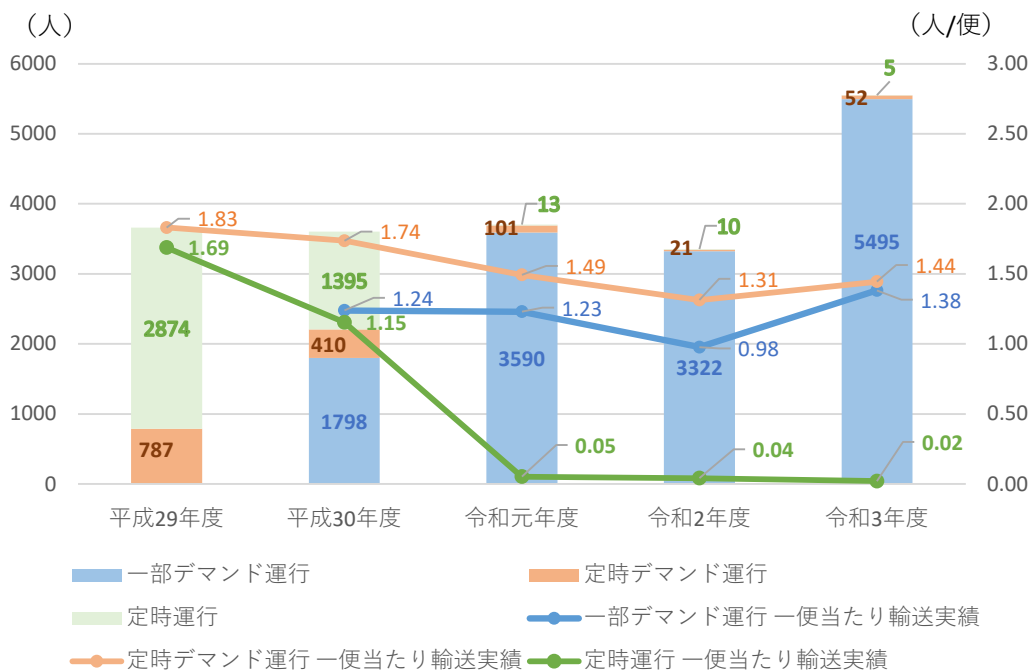


図 利用状況

資料：町提供資料

b.大河内線

大河内線の利用状況を見ると、利用者は定時運行が定時デマンド運行よりも多く、令和3年度で3,829人となっている。

令和2年度及び令和3年度の小中学校統廃合によりバス通学の児童生徒が増え、令和3年度の利用者全体の約9割が児童生徒の通学である。

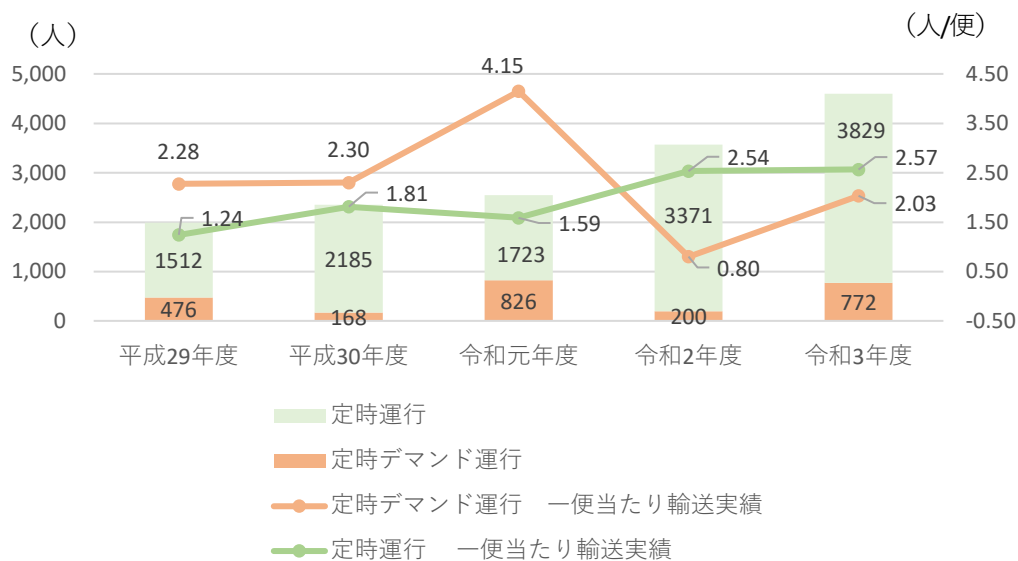


図 利用状況

資料：町提供資料

④ 自主運行バス（磐田線）

磐田線の利用者数は令和2年度まで増加傾向にあったが、令和2年度は31,427人、令和3年度は31,082人と横ばいになっている。

平成30年度から令和2年度の増加については、令和元年度9月に遠州鉄道㈱が運行する磐田市立病院福田線が撤退し、主に高校生の通学利用が磐田線に移行した影響と考えられる。



図 利用者数の推移

資料：町提供資料

⑤ 患者バス

患者バスの利用状況を見ると、全ての路線で利用は減少傾向にあり、特に平成30年度から令和元年度にかけての減少が顕著に見られる。

利用者が最も多いのは大久保線であり、令和3年度で583人である。一方、利用者が最も少ないのは一宮線であり、令和3年度で5人となっている。

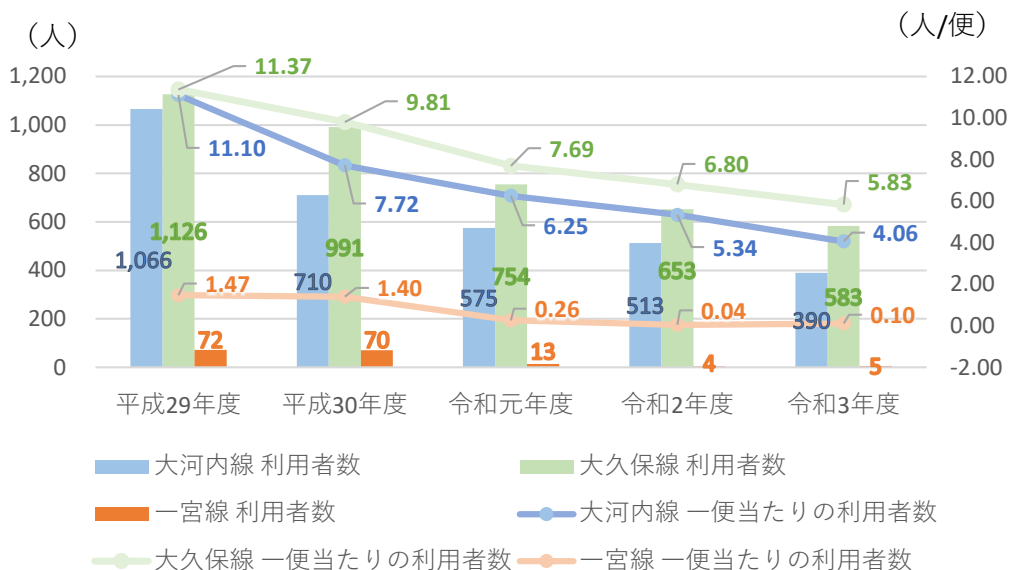


図 患者バスの利用状況

資料：町提供資料

(4) 収支状況

平成 29 年度から令和 3 年度にかけて、いずれの路線においても町負担額は増加している。

民間路線バスは、平成 30 年度から令和 3 年度の町負担額の増減については、新型コロナウイルス感染症の拡大による利用者の大幅な減少や人件費及び減価償却費の増加、国庫補助金の交付額用件の緩和等の影響と考えられる。

秋葉線（民間路線バス）は、利用者数は令和 2 年度から令和 3 年度にかけての変化は大きくないものの、町負担額が 3,012 千円と大きく増加している。

秋葉中遠線（民間路線バス）は、町負担額が令和元年度まではばらつきが見られるが、コロナ禍である令和 2 年度以降大きく増加している。

吉川線（町営バス）は、町負担額の増減率が平成 29 年度と令和 3 年度とを比べた際、27.42%と増加を示しているが、利用者についても学校統廃合の影響で 51.65%増加している。

大河内線（町営バス）は、町負担額の増減率が平成 29 年度と令和 3 年度とを比べた際、25.96%と増加を示しているが、利用者についても学校統廃合の影響で 131.44%増加している。

磐田線（自主運行バス）は、町負担額が平成 29 年度から令和 3 年度にかけて 10.48%増加しているが、事業者撤退路線を引き継いだ影響で利用者も 58.64%増加している。

患者バスは、利用者数がいずれの路線においても減少傾向にあるが、町負担額は 2,900 千円程度で増減している。

表 路線ごとの収支状況

| 区分 | 路線名 | 利用者数（人） | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | H29-R3 の増減率 |
|------------------------|-------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|----------------|
| | | 町負担額（円） | | | | | | |
| 民間路線バス ※1 | 秋葉線 | 利用者数 | 101,760 | 95,633 | 87,146 | 78,480 | 79,191 | -22.18% |
| | | 町負担額 | 8,587,000 | 9,154,000 | 9,404,000 | 8,921,000 | 11,933,000 | 38.97% |
| | 秋葉中遠線 | 利用者数 | 236,678 | 245,677 | 260,872 | 198,635 | 183,168 | -22.61% |
| | | 町負担額 | 3,154,000 | 4,282,000 | 2,970,000 | 5,894,000 | 9,120,000 | 189.16% |
| 自主運行バス (町営バス) ※2 | 吉川線 | 利用者数 | 3,661 | 3,603 | 3,704 | 3,353 | 5,552 | 51.65% |
| | | 町負担額 | 3,962,190 | 3,759,779 | 5,085,029 | 5,085,799 | 5,048,477 | 27.42% |
| | 大河内線 | 利用者数 | 1,988 | 2,353 | 2,549 | 3,571 | 4,601 | 131.44% |
| | | 町負担額 | 3,041,476 | 2,987,134 | 3,100,398 | 4,016,416 | 3,831,102 | 25.96% |
| 自主運行バス ※3 | 磐田線 | 利用者数 | 19,593 | 21,050 | 24,334 | 31,427 | 31,082 | 58.64% |
| | | 町負担額 | 1,383,000 | 1,144,000 | 1,064,000 | 1,831,000 | 1,528,000 | 10.48% |
| 患者バス ※4 | 大河内線 | 利用者数 | 1,066 | 710 | 575 | 513 | 390 | -63.41% |
| | 大久保線 | 利用者数 | 1,126 | 991 | 754 | 653 | 583 | -48.22% |
| | 一宮線 | 利用者数 | 72 | 70 | 13 | 4 | 5 | -93.06% |
| | 合計 | 町負担額 | 2,755,545 | 2,920,504 | 2,928,687 | 2,930,355 | 3,040,457 | 10.34% |

※1 民間路線バスの町負担額は、バス事業者への補助金額

※2 町営バスの町負担額は、運行経費から運賃収入と県補助金額を引いた額

※3 自主運行バス磐田線の町負担額は、バス事業者への補助金額から県補助金額を引いた額

※4 患者バスの町負担額は、委託料費と燃料費の合計額

資料：町提供資料

① 民間路線バス（秋葉線、秋葉中遠線）

民間路線バスの収支状況を見ると、町負担額は年度によってばらつきがあるが、秋葉線、秋葉中遠線ともに増加傾向がみられる。

一人当たりの町負担額を見ると、秋葉線は増加傾向にあり、平成29年度では84.4円、令和3年度では150.7円と約1.8倍増加している。一方、秋葉中遠線は平成29年度では13.3円、令和3年度では49.8円と約3.7倍増加している。

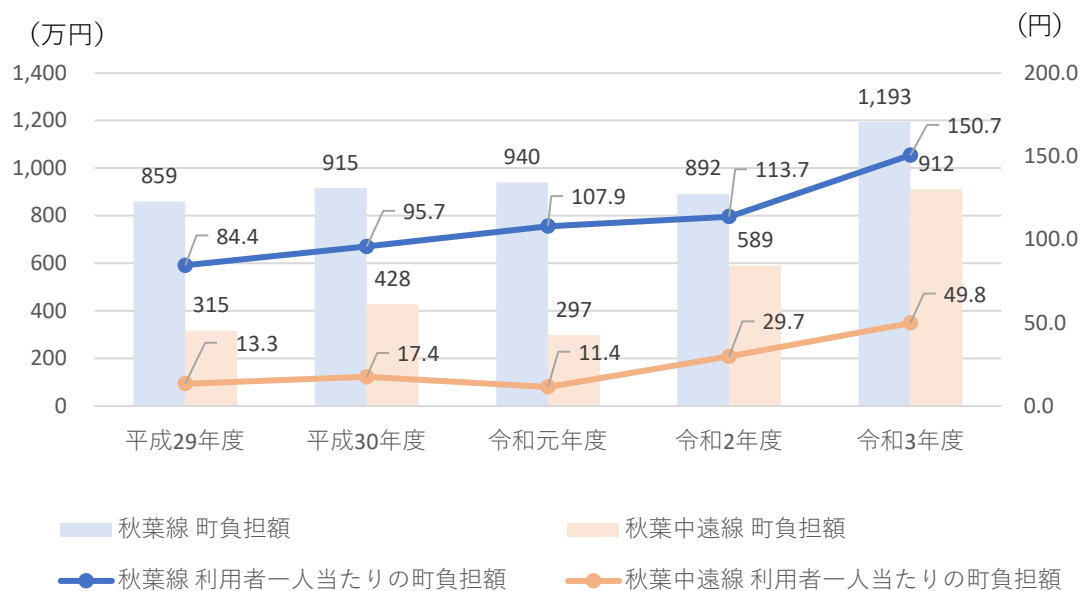


図 運行負担額（民間路線バス）

資料：町提供資料

② 町営バス

a.吉川線

吉川線の収支状況をみると、町負担額は令和元年から横ばいであり、令和3年度で505万円となっている。また、利用者一人当たりの町負担額については、令和2年までは増加傾向にあったが、令和2年度から令和3年度にかけては減少している。これについては、小学校統廃合による通学利用者増加の影響が大きいと考えられる。

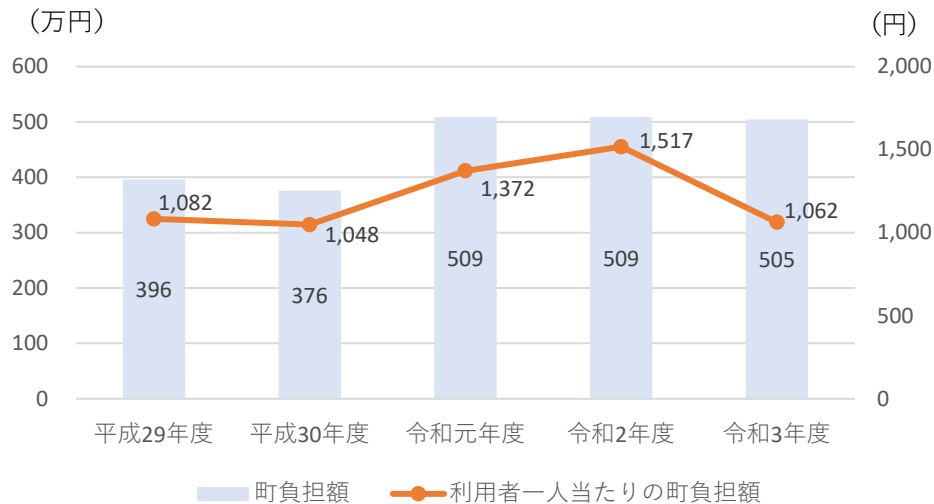


図 運行負担額（吉川線）

資料：町提供資料

b.大河内線

大河内線の収支状況をみると、町負担額は学校統廃合による運行時間の延長等の影響で令和元年度から令和2年度にかけて増加しているが、利用者一人当たりの町負担額については、令和3年度で833円と減少傾向にある。これについては、小中学校統廃合やバス通学人数の変動による影響が大きいと考えられる。

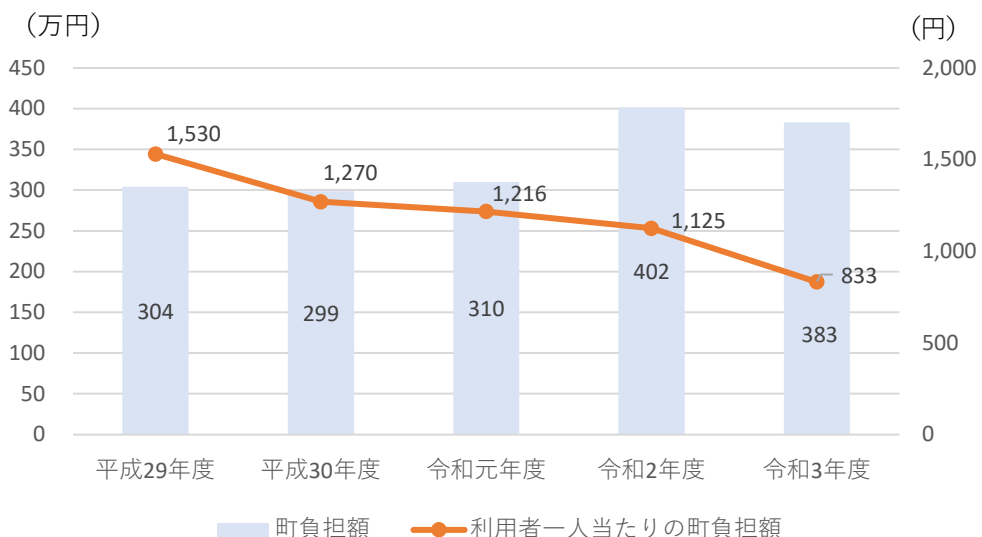


図 運行負担額（大河内線）

資料：町提供資料

③ 自主運行バス（磐田線）

町負担額は、平成 29 年度から令和元年度については減少傾向であったが、令和 2 年度から増加している。また、利用者一人当たりの町負担額については、平成 29 年度では 70.6 円、令和 3 年度では 49.2 円と減少している。

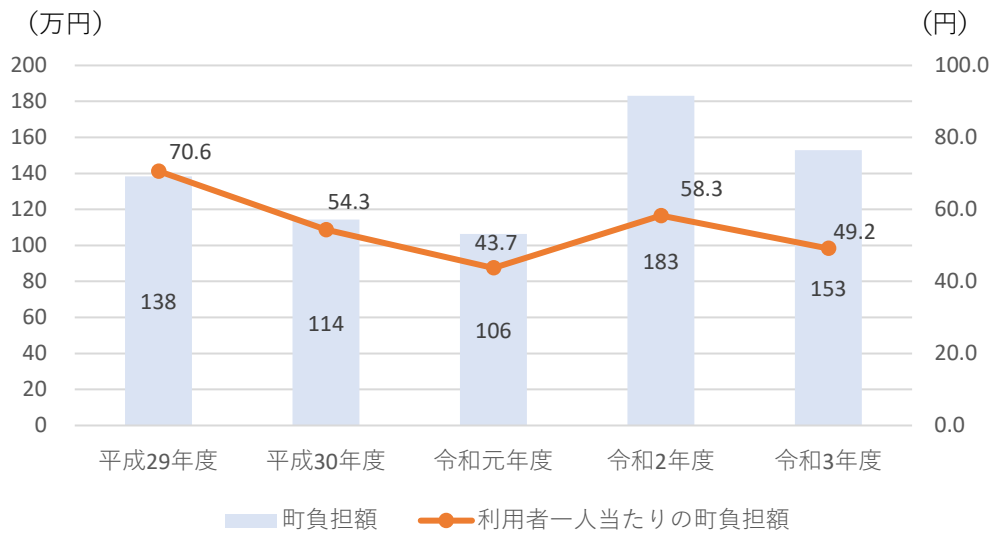


図 運行負担額（磐田線）

資料：町提供資料

2.2.公共交通空白地域の状況

人口集積がみられるエリアには、概ね公共交通サービスが提供されている。

一方で、一宮地区では、一定程度の人口集積がみられるものの、公共交通が利用しにくいエリアが存在している。

また、園田地区内では磐田線が運行されているが、運行がない日中や休日は実質的に公共交通空白地域となっている。

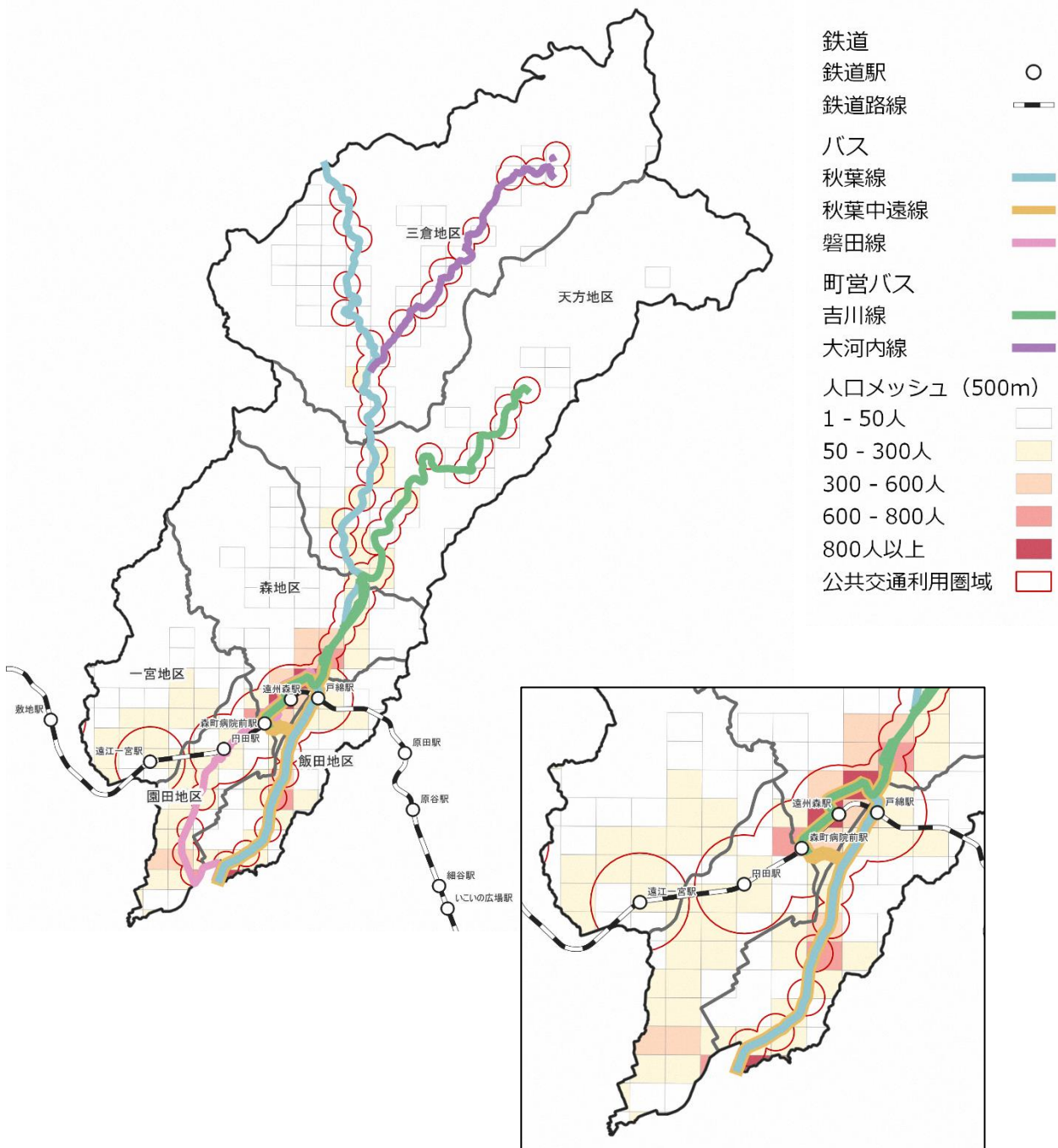


図 平日・日中の公共交通空白地域

図 公共交通空白地域

3. 公共交通に関するニーズ・ヒアリング調査

3.1. アンケート調査

3.1.1 町民アンケート

a. 実施概要

日常生活における移動実態や公共交通の利用状況、公共交通全般に対する町民ニーズや地域公共交通の問題点・課題などを把握するため、「日常の外出や公共交通に関する町民アンケート」を実施した。

町民 1,000 人を対象にアンケート票を郵送配布し、郵送回収またはインターネットでの回答を受付した。

521 人から回収し、回収率は 52.1%であった。

| 項目 | 内容 |
|---------|---|
| 実施時期 | 令和 4 年 11 月 7 日（月）～令和 4 年 11 月 24 日（木） |
| 実施目的 | <ul style="list-style-type: none">日常生活における移動実態の把握公共交通の利用状況の把握公共交通全般に対する町民ニーズの把握地域公共交通の問題点・課題点の整理 |
| 実施方法 | 郵送配布（郵送回収またはインターネットでの回答） |
| 対象者 | 18 歳以上の町民 1,000 人 |
| 対象者抽出条件 | 森地区 200 人、一宮地区 160 人、園田地区 160 人、飯田地区 160 人、三倉地区 160 人、天方地区 160 人 |
| 配布数 | 1,000 票 |
| 回収数 | 521 票（うちインターネット回答 66 票） |
| 回収率 | 52.1% |

b. 結果概要

調査結果の概要は次のとおり。

<回答者の属性>

- 自家用車の保有率は全体で8割以上と高い状況にあり、特に一宮地区と園田地区では9割以上となっている。
- 免許返納の意思は、園田地区、一宮地区で「現在は返納を考えていない」の回答が多い。
- 「ボランティア輸送のドライバーへの意向がある」と回答した人の割合が約2割である。

<移動状況>

- 移動手段は自家用車（自分で運転）が最も多い状況にある。
- 日常の買物先は町内店舗への移動が多いものの、フーズマーケットマム山梨店、イオン袋井店など町外店舗への移動も多く見られる。
- 通院先は森町病院・家庭医療クリニックなど町内の病院への移動が多く見られるが、一宮地区や飯田地区では町外への通院も多く見られる。
- 通勤・通学先は町外への移動が多く、町外では袋井市、磐田市、浜松市などへの移動が見られる。

これらのことから、日常生活における移動状況は、通勤・通学では町外への移動が多く見られるものの、買物や通院では町内移動、町外移動どちらも多くある。

<公共交通に対するニーズ>

- 公共交通の運賃設定については、国や自治体の一部負担による運賃の値下げのニーズが高い。
- デマンドタクシーの利用意向については、「わからない」の回答が多いものの、想定される目的地では「森町病院・家庭医療クリニック」や「ピアゴ森店」、「金融機関」が多く、買い物や通院目的などでの利用ニーズが高いと考えられる。
- 町外での買い物先として、イオン袋井店への移動が多く、またデマンドタクシーの目的地としても想定する回答が多い。
- 路線を問わず、バスへの不満は「バス停が近くにない」、「日中の便が少ない」が多く回答されており、「バス停が近くにない」については一宮地区、園田地区で特に不満の回答が多い。

これらのことから、一宮地区、園田地区を中心とした日中の町内外の移動手段の確保は、現行の公共交通では十分ではないと考えられる。

3.1.2公共交通利用者アンケート

a. 実施概要

バス利用者の移動実態や利用実態を把握するため、「公共交通利用者アンケート」を実施した。

秋葉バス、町営バス利用者を対象にアンケート票をバス車内に置き止めし、郵送回収またはインターネットでの回答を受付した。

アンケートは67人から回収した。

| 項目 | 内容 |
|------|----------------------------------|
| 実施時期 | 令和4年11月7日(月)～令和4年11月24日(木) |
| 実施目的 | ・バス利用者の移動実態の把握 ・バス利用者の利用実態の把握 |
| 実施方法 | 調査票バス車内置き止め(郵送回収及びインターネットでの回答) |
| 対象者 | 秋葉バス路線、町営バス路線の利用者 |
| 回収数 | 67票(うちインターネット回答30票) |

b. 結果概要

調査結果の概要は次のとおり。

<回答者の属性>

- ・居住地域は袋井市民の24人、森町民の19人とで全体の半数以上を占める。
- ・年齢は10代以下が多い。
- ・利用者の運転免許の有無に差は見られない。

<移動状況>

- ・通勤・通学での利用が最も多い。
- ・バスの利用は往復での利用が多いものの、時間に合う便がない、家族や友人が送迎できるからといった理由で片道のみ利用も見られる。
- ・自宅からバス停の距離は、「5分以内」の回答が最も多いが、次いで「20分以上」の回答も多い。加えて、利用したバスの「代替りの移動手段がない」の回答も多く見られたことから、移動手段においてバスが必要不可欠の場合があると考えられる。

<バスについて>

- ・運行本数に対し津満足度は「不満」、「やや不満」が多い。
- ・始発便の時間帯よりも、終発便の時間帯に対する不満が多い。
- ・バスに求める重要項目では、「運行本数」が最も重視されている。

3.1.3 高校生アンケート

a. 実施概要

高校生の通学における移動実態や学校生活以外の公共交通の利用実態を把握するため、「高校生アンケート」を実施した。

静岡県立遠江総合高校に協力していただき、全校生徒 556 人を対象に、学校から生徒にアンケートを依頼し、インターネットでの回答を受付した。

アンケートは 348 人から回収し、回収率は 62.6%であった。

| 項目 | 内容 |
|------|---|
| 実施時期 | 令和 4 年 11 月 24 日（木）～令和 4 年 12 月 9 日（金） |
| 実施目的 | ・ 高校生の通学における移動実態の把握 ・ 高校生の学校生活以外の公共交通の利用実態の把握 |
| 実施方法 | 学校から生徒にアンケートを依頼し、WEB 回収 |
| 対象者 | 静岡県立遠江総合高校の全校生徒 |
| 対象者数 | 556 人（1 年生 190 人、2 年生 163 人、3 年生 203 人） ※令和 4 年 11 月時点 |
| 回収数 | 348 票 |
| 回収率 | 62.6% |

b. 結果概要

調査結果の概要は次のとおり。

<回答者の属性>

- ・居住地は袋井市が3割強と最も多く、次いで掛川市約2割程度、森町約2割程度、磐田市1割程度、その他市町となっている。

<通学状況>

(晴れ・くもりの日の場合)

- ・全体的な学生の交通手段は、「自転車」が最も多い。
- ・森町の学生の交通手段は、「自転車」が7割程度と最も多く、次いで「徒歩」、「家族等の送迎」が2割程度である。
- ・磐田市の学生の交通手段は、「自転車」、「バス」「電車（天浜線・JR）」、「家族等の送迎」がそれぞれ3割程度である。
- ・掛川市の学生の交通手段は、「電車（天浜線・JR）」が6割程度と最も多く、次いで「自転車」が5割程度である。
- ・袋井市の学生の交通手段は、「自転車」が6割程度と最も多く、次いで「バス」が3割程度である。

(雨の日の場合)

- ・全体的な学生の交通手段は、「家族等の送迎」が最も多く見られる一方、「自転車」は全体的な減少が見られる。
- ・バスを利用しない理由は、「学校や駅まで徒歩や自転車でいけるため」が4割程度であり、次いで「家族等の送迎があるため」が2割程度、「運賃が高い」が1割程度となっている。

<学校生活以外の移動状況>

- ・森町内の高校生は他市への移動が多い一方で、磐田市、掛川市、袋井市の高校生は自市内での移動が多くみられる。
- ・移動の目的は主に「買い物」であり、次いで「レジャー・娯楽」が多い。
- ・バスを利用しない理由は、「駅や目的地までバス以外の手段で行けるため」が4割程度、「運賃が高い」が2割程度となっている。

これらのことから、晴れの日の通学の主たる交通手段は「自転車」であるが、雨の日は「家族等の送迎」になることから、雨の日の通学に公共交通が選択肢となるよう、周知や利用促進をしていく必要がある。

3.2. 事業者ヒアリング

3.2.1 交通事業者ヒアリング

交通事業者ごとの運行状況、利用状況、課題等の把握、新たな運行方法を検討するため、訪問等によりヒアリングを行った。ヒアリングの結果概要は次のとおり。

<ヒアリング交通事業者>

袋井タクシー(株)、袋井交通(株)、掛川タクシー(株)、遠鉄タクシー(株)、秋葉バスサービス(株)

<運行状況・利用状況>

- ・新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年と比較すると、現在は 7 割程度での利用となっている。それに伴い、運行台数も減少している。
- ・通院での利用者が多い。
- ・森町の高齢者は、他自治体の住民に比べて「静岡県タクシー共通クーポン」を使用したタクシー乗車率が高い。森町公共交通利用券助成事業を利用してクーポン券を購入した利用者と思われる。

<事業上の課題>

- ・人員の不足等に伴い、需要に対応しきれないケースがある。
- ・一部の事業者では運転手の高齢化が顕著な課題となっている。

<森町でのデマンドタクシー等の運行意向等について【新たな運行方法の検討】>

- ・条件次第ではあるが、デマンドタクシー等の運行自体は可能な事業者が多数である。
- ・車両や乗務員とも専属での運行が必要となり、1 日借り上げ方式を希望する事業者がほとんどである。

表 デマンドタクシー等の運行意向等について

| | 運行意向 | 運行資格 | 人員 | 車両 |
|-----|--------------|------|----|----|
| A 社 | △ (※条件次第) | ○ | ○ | ○ |
| B 社 | △ (※条件次第) | ○ | ○ | ○ |
| C 社 | △ (※条件次第) | × | ○ | ○ |
| D 社 | △ (※条件次第) | ○ | △ | × |
| E 社 | × | × | × | × |

3.2.2 関係事業者ヒアリング

関係事業者が実施している事業等を把握し、連携を図るためヒアリングを行った。ヒアリングの結果概要は次のとおり。

①社会福祉協議会（ボランティア移動支援）

【運行概要・利用状況・課題等】

<運行状況・利用状況>

地域住民がボランティア運転手、社会福祉協議会が運営主体となり実施する高齢者向けの移動支援。利用にあたっては会員登録（条件あり）及び予約が必要となる。

運転手数：15人（2023年4月より21人となる予定）

運行車両：ボランティア運転手の自家用車

利用費用：なし

運行時間：8時30分～17時15分

- ・依頼会員登録は増加傾向にある。（令和5年1月時点で38名）
- ・通院目的での利用が多いが、買い物や美容院を目的とした依頼もある。
- ・利用は原則一人月2回までだが、毎月2回依頼する人は少ない。
- ・38人の依頼会員のうち、実際に利用しているのは26人程度である。

<事業上の課題>

- ・協力会員（ボランティア運転手）は、仕事を定年退職された70代以上が多く、高齢である。定年退職年齢の引き上げにより、協力会員になっていただけの年齢層が狭くなることで、今後の協力会員減少を危惧している。
- ・町内に移動支援できる親族等がないことが依頼会員の登録条件の1つであり、この条件のため登録できないケースがしばしばある。その結果、移動手段がなくサロンやオレンジカフェなど地域の集まりに参加できない方のニーズに答えられない。
- ・依頼会員（特に飯田地区や園田地区）から町外への移動ニーズはあるものの、事業上応えることができない。
- ・協力会員の自家用車を用いる都合上、ある程度まとまった人数を一度に輸送することができない。
- ・送迎時、依頼会員から協力会員への連絡は、電話番号を記載した連絡カードによって直接お願いしているが、電話番号を教えることに抵抗がある協力会員もいる。一部で、連絡の際にも社会福祉協議会が依頼会員と協力会員の間にあってほしいとの声も出ている。

これらのことから、ボランティアによる移動支援だけではカバーしきれない町外への移動ニーズ、多人数の輸送ニーズに答えられる移動手段の提供に需要があると考えられる。また、協力会員増加に係る取組を地域や行政と連携して行う必要がある。

②小國神社（無料送迎バス）

【運行概要・利用状況・課題等】

<運行概要・利用状況>

主に天竜浜名湖鉄道を利用する来場客のため、小國神社～遠江一宮駅間をマイクロバスで送迎している。9～16時の間で、およそ1時間に1便運行されており予約は不要。

運行車両：マイクロバス（27人乗り）

利用費用：なし

運行日：1月7～15日、各月1日・15日、日曜・祝祭日、その他特別期間（紅葉期間やイベント日等）に運行し、年間で120日ほどの運行となっている。

- ・年間で2,000人程度の利用がある。
- ・利用者は高齢層だけでなく、若年層の利用も見られる。
- ・各月1日・15日の運行時は、定期的な参拝客の利用がほとんどである。
- ・定期運行日より特別運行日の利用者が多い。
- ・満車になるような利用が月に1回ほどある場合もある。
- ・遠江一宮駅からの乗降者だけでなく、駅周辺の地域住民の利用もある。

<事業上の課題>

- ・運転士の高齢化及び確保。
- ・運行していても利用客が0人なことも珍しくないが、満車になる場合も踏まえると車両の小型化に踏み切れない。
- ・送迎を利用する人は、主に遠江一宮駅の利用者であるが、天竜浜名湖鉄道を利用して来場される方が減っている。天竜浜名湖鉄道や行政側で利用促進をしていただきたい。

これらのことから、小國神社の自主運行だけではカバーしきれない観光客のニーズに応えられる移動手段の提供に需要があると考えられる。

4. 公共交通を取り巻く現状・課題の整理

森町の地域公共交通における現状及び課題は以下のとおりです。

視点1:地域特性 からみた現状・問題点

- 本町の人口は減少傾向にあり、令和2年では17,457人となっている。
- 平成7年度から高齢単身世帯は、増加傾向にある。
- 人口推計では、2045年には12,636人まで減少(約3割減)することが予測されている。加えて、75歳以上人口は増加する見込みである。
- 山間部である三倉地区や天方地区では、人口が700人～1000人程度と比較的少なくなっており、減少率も大きい。
- 町外の通勤流動は、袋井市(3,503人)・磐田市(2,261人)・掛川市(1,932人)・浜松市(1,755人)の流動が多い。
- 町外の通学流動は、袋井市(290人)、掛川市(240人)、浜松市(128人)の流動が多い。
- 観光入込客数をみると、令和3年度では約75万人/年が本町を訪れている。
- 町民アンケート調査によると、各地区から「ピアゴ森店」への買い物が多い。また、「イオン袋井店」などの町外商業施設への移動も多くみられる。
- 町民アンケート調査の結果から、町民の移動手段は、自家用車(自分で運転)である。また、令和4年時点の1世帯当たりの自家用車保有台数は1.84台であり、県内市町で1位と高い状況である。
- 山間部においては観光施設の立地が多く、商業施設・医療施設は極めて少ない。

視点2:地域公共交通の状況 からみた現状・問題点

- 令和元年度に遠州鉄道(株)の磐田市立病院福田線が撤退し、令和4年度にタクシー事業者1社が廃業している。
- 民間路線バスやタクシーの利用者数が、新型コロナウイルス感染症の影響によりコロナ禍前に比べて減少している。
- 町営バスは、令和2年度及び令和3年度の小中学校統廃合の影響により、児童生徒のバス通学利用者が増加している。
- 磐田線は、遠州鉄道(株)の磐田市立病院福田線撤退の影響により、主に高校生の通学利用が磐田線に移行し、利用が増加している。
- 患者バスは利用者の減少が大きく、中でも一宮線では平成29年から令和3年で-93.06%となっている。
- 交通・関係事業者へのヒアリング調査によると、多くの事業者がドライバーの高齢化や人手不足などの問題を抱えている。
- 町民アンケート調査によると、「ボランティア輸送のドライバーへの意向がある」と回答した人の割合は約2割である。
- 町民アンケート調査によると、路線バスの不満点として「バス停が近くにない」と回答した人の割合が多い。
- 高校生の通学手段は、晴れの日には「自転車」、雨の日には「家族等による送迎」が主であり、公共交通が選ばれていない。
- 町内を運行するすべての路線で、平成29年度から令和3年度で町の負担額が増加している。中でも民間路線バスに対する負担額が大きく、負担額の増加率も高い。次に町営バスに対する負担が大きい。
- 一宮地区や日中の磐田線沿線(園田地区)は公共交通空白地域であり、公共交通サービスを利用しにくい状況である。
- 秋葉バスサービス(株)では利便性向上策としてバスロケーションシステムの導入や運行時刻表のデジタルサイネージが設置されている。
- 森町の高齢者は、他自治体の住民に比べて「静岡県タクシー共通クーポン」を使用したタクシー乗車率が高い。公共交通利用券助成事業を利用してクーポン券を購入した利用者と思われる。

視点3:上位関連計画における公共交通の位置づけ からみた現状・問題点

- 森町都市計画マスタープランでは、「公共交通結節機能の充実」「観光施策との連携」が求められている。
- 森町立地適正化計画では、目指すべき集約型都市構造の姿が示され、その中で地域公共交通分野においては、「交通結節点(遠州森駅周辺)における乗り継ぎのスムーズ化」等が求められている。
- 「遠州の小京都まちづくり」基本計画では、「観光客の移動手段の確保」が求められている。

その他:社会動向・まちづくりの変化

- 全国的にデジタル技術を活用し、公共交通の利便性向上や運行効率化を図る取組が推進されている(キャッシュレス決済、AIオンデマンド、自動運転など)。
- 新型コロナウイルス感染症によって、生活様式に変化が生じている。

課題1:人口減少・高齢化に対応した公共交通サービスの提供

- 本町においては人口減少・高齢化が進んでおり、将来的にはさらに人口減少・高齢化が進むと推計されている。
- 平成7年度から高齢単身世帯は、増加傾向にある。
- 三倉地区や天方地区は、人口減少率が高く、商業施設や医療施設等の立地が少ない。
- 一宮地区や日中の磐田線沿線(園田地区)は公共交通空白地域となっており、公共交通サービスを利用しにくい状況である。

以上のことから、全町的な高齢者の移動支援、一宮地区・園田地区などを中心とした公共交通空白地域への交通サービスのあり方や新たな運行方法の導入の検討が必要である。

課題2:町内外への移動を支える公共交通サービスの検討

- 通勤通学流動をみると、袋井市や磐田市、掛川市、浜松市などの流動が多い。
- 町民アンケート調査によると、日常生活の買い物先は町内店舗に加え、「イオン袋井店」などの町外商業施設への移動も多くみられる。
- 町内には観光施設が多く立地しているが、一宮地区など、公共交通サービスが不十分なエリアが存在している。

以上のことから、町内外への移動や観光客等の公共交通利便性向上に向けた検討を行う必要がある。

課題3:既存の公共交通サービスに係る運行見直しや利用促進策の検討

- 町内を運行するすべての路線で、町の負担額が増加している。中でも民間路線バスに対する負担額が大きく、負担額の増加率も高い。次に町営バスに対する負担額が大きい。
- 患者バスは利用者数が少なく、利用者の減少率も大きく、中でも一宮線の利用者数が少ないため、廃止を含めた運行見直しを行う必要がある。
- 民間路線バスやタクシーの利用者数が、新型コロナウイルス感染症の影響によりコロナ禍前に比べて減少している。
- 高校生の通学手段として晴れの日には「自転車」、雨の日には「家族等による送迎」が主となっており、公共交通が選ばれていない。
- 森町公共交通利用券助成事業が公共交通を利用するきっかけの一因となっているため、助成事業を周知する取組が必要である。
- 路線バスの利便性向上のため、キャッシュレス決済の導入を交通事業者と調整する必要がある。

以上のことから、既存の公共交通の利用者数の増加を図るため、高校生や高齢者などの車を持っていない層をターゲットとした利用促進策に取り組む必要がある。
また、患者バス一宮線の運行の見直しを行う必要がある。

課題4:担い手不足を踏まえた公共交通サービスのあり方の検討

- バス路線の撤退や事業者の廃業、ドライバーの高齢化など、地域公共交通の担い手が不足している。
- ボランティア移動支援の協力会員増加に係る取組を地域や行政と連携して行う必要がある。
- 町民アンケート結果では、回答者の約2割がボランティア輸送のドライバー意向があることを示している。

以上のことから、事業者だけでなく、担い手の確保に係る取組を地域や行政と連携して行う必要がある。

課題5:まちづくりと連動した公共交通サービスの検討

- 令和2年3月に「森町立地適正化計画」が策定され、本町が目指す都市構造が示されており、その実現に向けた公共交通サービスの検討が必要である。
- その他、観光施策と連動した公共交通サービスが求められている。

以上のことから、まちづくりや観光施策と連動した公共交通サービスの検討が必要である。

公共交通のあり方等の検討や課題の整理

「現行の公共交通サービス」と「町民の居住状況」「町民の移動状況・ニーズ」に課題（ミスマッチ）が生じているため、運行内容の見直し・新たな公共交通サービスを検討し、持続可能な公共交通ネットワークを目指す。

【課題（ミスマッチ）】

- ・町民が多く居住しているエリアが、公共交通空白地域となっている。
- ・移動ニーズがあるが公共交通サービスが不十分であるため移動がしにくい。
- ・公共交通サービスが提供されているが、需要がないため利用が低迷。

計画へ反映する事業のイメージ

- 現況整理で明らかとなった公共交通空白地域（一宮地区、園田地区）を中心とした、新たな公共交通（デマンドタクシー等）の導入を検討する。
※交通事業者や庁内関係各課などの関係者と協議を進めながら検討する。
- 町外商業施設までの買い物移動が一定数見られたため、当該施設までの移動手段の確保を検討する。
- 患者バス—宮線の利用者低迷のため、廃止を含めた効率化を検討する。
- 公共交通利用者数の増加を図るため、車を持っていない層をターゲットとした利用促進に取り組む。

基本方針と目標

森町が目指す まちの姿

都市計画マスタープラン

- ・「公共交通結節機能の充実」
- ・「観光施策との連携」

立地適正化計画

- ・交通結節点の乗り継ぎスムーズ化
- ・集約型都市構造 など

遠州の小京都まちづくり基本構想・基本計画

- ・観光客の移動手段の確保

課題

- 人口減少・高齢化に対応した公共交通サービスの提供
- 町内外への移動を支える公共交通サービスの検討
- 既存の公共交通サービスに係る運行見直しや利用促進策の検討
- 担い手不足を踏まえた公共交通サービスのあり方の検討
- まちづくりと連動した公共交通サービスの検討

基本理念および方針

【基本理念】

まちづくりを支える持続可能な公共交通
～町民・来訪者から選ばれる公共交通～

【基本方針】

（基本方針1）
ニーズに対応した公共交通

（基本方針2）
まちづくりと交流を推進する公共交通

（基本方針3）
地域で支え合い、地域を支える公共交通

計画の目標

【目標】

（目標1）
広域移動を支える公共交通の確保・維持

（目標2）
町内移動を支える公共交通の構築

（目標3）
わかりやすく・利用しやすい公共交通の推進

※目標に対応した評価指標については、令和5年度事業で設定する。

施策・事業のイメージ

- ・鉄道の維持
- ・幹線バスの維持
- ・自主運行バスの維持
- ・患者バスの見直し（廃止）
- ・公共交通空白地域へ新たな公共交通の導入検討
- ・新たな交通システムの導入
- ・公共交通の周知・利用促進策の実施
- ・公共交通に関する情報発信の強化
- ・快適な待合環境の整備
- ・公共交通利用券助成事業の促進
- ・免許返納者へのサポート
- ・ボランティア運転手（ボランティア移動支援協力会員）の確保

など

※具体的な施策・事業は令和5年度事業で決定するため、あくまでイメージ。

協議事項（2）

令和5年度森町地域公共交通会議事業計画案について

1. 森町地域公共交通法定計画策定事業

令和4年度事業で整理等したものを踏まえ、以下の事業により森町地域公共交通法定計画の策定を行う。

- (1) 森町の地域公共交通ネットワークの方向性検討
- (2) 目標を達成するために行う事業及びその実施主体の検討
- (3) 評価指標と計画の進行管理の検討
- (4) 計画のとりまとめ
- (5) パブリックコメントの実施

※具体的な事業の実施内容については、資料2-2に記載。

2. 森町地域公共交通会議の開催

開催予定回数：3回

| 事業スケジュール（予定） | |
|--------------|--------------------------------------|
| 年月 | 内容 |
| 令和5年4月 | コンサルと計画策定支援に係る業務委託契約締結 |
| 令和5年5月～6月 | 令和5年度第1回森町地域公共交通会議 |
| 令和5年12月～1月 | 令和5年度第2回森町地域公共交通会議 |
| 令和6年1月～2月 | パブリックコメント実施 |
| 令和6年3月 | 令和5年度第3回森町地域公共交通会議 森町地域公共交通法定計画策定 |

※森町地域公共交通会議については、追加開催を行う可能性があります。

※令和5年度の計画策定に係る国庫補助について、当協議会は補助対象外となりました。

1. 当該地域の公共交通の概況・問題点

【本町の概況】

本町は、静岡県西部の中東遠地域北部に位置し、人口 17,563 人（令和 4 年 3 月末現在）、町域は、東西約 13km、南北約 24km と南北に長く、面積は 133.91 km²で、北西は浜松市天竜区、南西は磐田市、北東は島田市、南東は掛川市、南は袋井市と接している。町域の約 70%を山林が占めており、二級河川太田川が町を南北に流れ、町中心部から南部にかけて太田川流域に平野部が広がり、市街地や田園を形成している。町北部の山間部には、河川沿いの限られた山あいの平坦地に集落地が点在している。

町内の交通状況は、南北に主要地方道袋井春野線、東西に主要地方道掛川天竜線が横断しており、交通の要衝となっている。また、新東名高速道路（森掛川 IC、遠州森町スマート IC）が開設されたことにより、広域交通の利便性が向上した。

本町における 65 歳以上の高齢化率は、静岡県平均の 30.2%を上回る 35.7%であり、今後も本町の高齢化率は増加し、高齢者の移動手段の確保が重要な課題となっている。また、本町の 1 世帯あたりの自動車保有率は県内市町中第 1 位であり、交通空白地域や山間部の地域などは、公共交通機関の不便さも相まって、高齢者であっても自家用車を運転しているのが現状である。

【公共交通の概況】

鉄道は、掛川市と本町や浜松市天竜区を經由して湖西市を結ぶ天竜浜名湖鉄道が通り、町内には戸綿駅、遠州森駅、森町病院前駅、円田駅、遠江一宮駅の 5 駅が設置されている。

民間バス事業者路線として、秋葉バスサービス(株)により、地域間幹線系統である秋葉線と秋葉中遠線が運行されている。また、自主運行バスとして、三倉地区を運行している大河内線、天方地区と森地区を運行している吉川線、磐田市と袋井市との共同で本町と各市をまたぐ磐田線を運行している。

タクシー事業者については、森町タクシー(合)が令和 4 年度に事業を廃止した。

【問題点】

令和 3 年度の各バス路線の本町の負担額は、民間バス事業者路線として秋葉線 11,933 千円、秋葉中遠線 9,120 千円を負担している。自主運行バス路線についても、大河内線 4,431 千円、吉川線 6,077 千円、磐田線 1,528 千円と町民の生活交通を確保・維持するために公共交通維持費用が大きくなっている。

また、町内には、一宮地区や園田地区などに交通空白地域があり、交通空白地域の解消に向けた新たな交通体系の構築が課題となっている。

〔計画の区域内における公共交通の概要〕（調査時点）

| | 路線バス | | デマンド（バス・タクシー）事業者数 | その他 |
|------------|------|-----|-------------------|---|
| | 事業者数 | 路線数 | | |
| 全体 | 1 | 2 | 0 | 鉄道 1業者1路線 患者バス 3路線（一宮方面、大河内方面、大久保方面） スクールバス 1路線（夢街道線） |
| うち公営・コミバス等 | 1 | 3 | 0 | |

2. 目指す交通計画と策定調査の必要性

【目指す公共交通】

本町では森町立地適正化計画を策定し、コンパクトな市街地の形成を図り、中心拠点や生活拠点が利便性の高い公共交通で結ばれた「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりの展開を目指している。公共交通についても、コンパクトなまちづくりと連携し、本町の公共交通を持続可能なものとし、町民の移動手段を確保していく。基幹交通やその他の公共交通の維持、交通空白地域対策などの移動手段の検討、利便性の向上と利用促進を目指す地域公共交通計画を策定する。

【策定調査の必要性】

令和4年度に行った調査や検討、整理した課題を踏まえ、森町の地域公共交通ネットワークの方向性検討、目標を達成するために行う事業及びその実施主体等の検討、評価指標と計画の進捗管理の検討等を行い、計画をとりまとめる必要がある。

| 3. 事業の実施内容 | |
|-------------------------------|--|
| 実施項目 | 実施内容 |
| 1. 森町の地域公共交通ネットワークの方向性検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 過年度で整理した課題を踏まえて、課題解決につながる将来を見据えた、森町における地域公共交通のあり方について、検討を行う。 ・ ネットワークの階層や類型（広域、地域間、地域内）ごとに、基本的な機能、求められる役割、該当する森町の公共交通を位置づける。 ・ 求められる役割に対して、森町の公共交通が機能として不十分な場合は、再編の方向性を示したり、新たな公共交通システムを検討したりするなど、公共交通ネットワークのあり方や方向性を設定する。 |
| 2. 目標を達成するために行う事業及びその実施主体等の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を達成する上で必要となる地域公共交通の再編や利用促進などの事業概要、事業が必要となる背景、具体的な事業内容、関係する実施主体、事業スケジュールなどを検討して定める。 |
| 3. 評価指標と計画の進行管理の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画目標や実施事業の達成状況を把握するための評価指標について、目標値を設定するとともに、目標値の算出方法や目標値設定の考え方（根拠）を定める。 ・ また、毎年、達成状況の評価を行うための進行管理方法や管理体制等を定める。 |
| 4. 計画のとりまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果や検討結果等を、計画（案）としてとりまとめる。 ・ パブリックコメントでの意見を踏まえて、計画書（案）及び計画書概要版（案）をとりまとめる。 |
| 5. パブリックコメントの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画（案）について、町民からの意見を募る。 |
| 6. 会議の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定に向けて、調査結果等を踏まえて、森町の地域公共交通の将来像や計画内容を協議するための協議会を開催する。 |

秋葉線の順路変更について

秋葉バスサービス株式会社

1. 協議目的と内容

弊社バス路線「秋葉線」は浜松市天竜区春野町と森町、JR 袋井駅を結んでいます。春野町内においては天竜高校春野校舎を経由するため「若身」～「天竜高校春野校舎」(片道 1.2 ㌾) 間で人家が密集かつ狭隘な旧道区間の犬居地内を往復する運行となっています。

当該区間内の停留所を「天竜高校春野校舎」の前後で 2 度通るため、先に通過したバスが 3～7 分後に再度逆向きで通過するなど利用の際にわかりづらい状況となっております。

この度、利用者により分かりやすく、且つ、より安全な運行になるべく、この区間の往路をバイパス経由、復路を旧道経由へ変更します。

この件につきまして、本会議にお諮りいたします。

なお、この変更に伴う運賃の変更及び運行本数の変更はございません。

2. 秋葉バス春野地区路線図



4. スケジュール

2023年1月 浜松市公共交通会議への報告

～ ここまで済～

2023年3月～6月 袋井市・森町の公共交通会議への報告

2023年8月 静岡運輸支局へ届出

2023年10月 新順路による運行開始

秋葉線時刻表

★気多→袋井駅前方面

2023.10.1改正(案)

| | 平 日 | | | | | | | | 土 日 祝 | | | |
|----------|--------------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|
| 気多 | 6:00 | 6:40 | 7:50 | 8:45 | 13:13 | 15:51 | 16:51 | 17:45 | 7:10 | 8:55 | 13:25 | 17:45 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 春野協働センター | 6:07 | 6:47 | 7:57 | 8:52 | 13:20 | 15:58 | 16:58 | 17:52 | 7:17 | 9:02 | 13:32 | 17:52 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 舟木 | 6:11 | 6:51 | 8:01 | 8:56 | 13:24 | 16:02 | 17:02 | 17:56 | 7:21 | 9:06 | 13:36 | 17:56 |
| 天竜高校春野校舎 | 6:16 | 6:56 | 8:06 | 9:01 | 13:29 | 16:07 | 17:07 | 18:01 | 7:26 | 9:11 | 13:41 | 18:01 |
| 犬居下 | 6:17 | 6:57 | 8:07 | 9:02 | 13:30 | 16:08 | 17:08 | 18:02 | 7:27 | 9:12 | 13:42 | 18:02 |
| 犬居城入口 | 6:17 | 6:57 | 8:07 | 9:02 | 13:30 | 16:08 | 17:08 | 18:02 | 7:27 | 9:12 | 13:42 | 18:02 |
| 犬居交番前 | 6:18 | 6:58 | 8:08 | 9:03 | 13:31 | 16:09 | 17:09 | 18:03 | 7:28 | 9:13 | 13:43 | 18:03 |
| 若身 | 6:19 | 6:59 | 8:09 | 9:04 | 13:32 | 16:10 | 17:10 | 18:04 | 7:29 | 9:14 | 13:44 | 18:04 |
| 平尾 | 6:22 | 7:02 | 8:12 | 9:07 | 13:35 | 16:13 | 17:13 | 18:07 | 7:32 | 9:17 | 13:47 | 18:07 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 堀割 | 6:32 | 7:12 | 8:22 | 9:17 | 13:45 | 16:23 | 17:23 | 18:17 | 7:42 | 9:27 | 13:57 | 18:17 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 袋井駅前 | 7:39 | 8:19 | 9:29 | 10:24 | 14:52 | 17:30 | 18:30 | 19:24 | 8:49 | 10:34 | 15:04 | 19:24 |

秋葉線時刻表

★袋井駅前→気多方面

2023.10.1改正(案)

| | 平 日 | | | | | | | | 土 日 祝 | | | |
|----------|--------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|
| 袋井駅前 | 6:04 | 6:52 | 11:30 | 14:03 | 15:03 | 15:45 | 16:54 | 18:20 | 7:05 | 11:33 | 15:45 | 18:05 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 堀割 | 7:07 | 7:55 | 12:33 | 15:06 | 16:06 | 16:48 | 17:57 | 19:23 | 8:08 | 12:36 | 16:48 | 19:08 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 平尾 | 7:17 | 8:05 | 12:43 | 15:16 | 16:16 | 16:58 | 18:07 | 19:33 | 8:18 | 12:46 | 16:58 | 19:18 |
| 天竜高校春野校舎 | 7:22 | 8:10 | 12:48 | 15:21 | 16:21 | 17:03 | 18:12 | 19:38 | 8:23 | 12:51 | 17:03 | 19:23 |
| 犬居下 | 7:23 | 8:11 | 12:49 | 15:22 | 16:22 | 17:04 | 18:13 | 19:39 | 8:24 | 12:52 | 17:04 | 19:24 |
| 犬居城入口 | 7:23 | 8:11 | 12:49 | 15:22 | 16:22 | 17:04 | 18:13 | 19:39 | 8:24 | 12:52 | 17:04 | 19:24 |
| 犬居交番前 | 7:24 | 8:12 | 12:50 | 15:23 | 16:23 | 17:05 | 18:14 | 19:40 | 8:25 | 12:53 | 17:05 | 19:25 |
| 若身 | 7:25 | 8:13 | 12:51 | 15:24 | 16:24 | 17:06 | 18:15 | 19:41 | 8:26 | 12:54 | 17:06 | 19:26 |
| 舟木 | 7:26 | 8:14 | 12:52 | 15:25 | 16:25 | 17:07 | 18:16 | 19:42 | 8:27 | 12:55 | 17:07 | 19:27 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 春野協働センター | 7:31 | 8:19 | 12:57 | 15:30 | 16:30 | 17:12 | 18:21 | 19:47 | 8:32 | 13:00 | 17:12 | 19:32 |
| | この間変更なしのため省略 | | | | | | | | この間変更なしのため省略 | | | |
| 気多 | 7:43 | 8:31 | 13:09 | 15:42 | 16:42 | 17:24 | 18:33 | 19:59 | 8:44 | 13:12 | 17:24 | 19:44 |

※往路・復路とも今回の順路変更に関係しない停留所の時刻の変更はありません。

※『犬居下』・『犬居交番前』・『犬居城入口』・『若身』は現在の2回目通過の時刻と変更はありません。

※運行本数の変更もありません。

夢街道線一般利用の試験運行について

夢街道線は、令和2年4月の中学校統合に伴い、三倉地区夢街道沿線の児童生徒の通学を目的として、学校登校日限定で無償運行を開始した路線(夢街道沿線⇄森林組合前バス停)である。

夢街道線一般利用の試験運行については、以前から町と特定非営利活動法人やまゆり三倉で検討され、夢街道線沿線の児童生徒が令和6年度以降0人になることから、令和4年10月から一般利用の試験運行を開始した。(令和4年度第1回森町地域公共交通会議で報告済み)

なお、令和6年度以降も運行継続する場合は有償化(有料)とし、半年間程度運行して継続可否の判断をすとしていた。

【試験運行期間】

令和4年10月～令和6年3月

※令和6年度以降の運行継続可否については、半年間程度運行して判断する。

【運行概要】

資料4-2「ご利用案内」のとおり

【利用実績】 令和4年10月～令和5年1月

利用実績 3名(実利用者2名)

10月：0名 11月：2名 12月：1名 1月：0名

【経緯】

- ・ 令和4年8月に3町内会(田能、大久保、中野)の住民へ夢街道線一般利用に係る利用意向アンケートを実施。(「すぐ使いたい」と回答した人は9人)
- ・ 令和4年9月15日、9月16日に利用方法の地域説明会を実施。(2日間で2名参加)
- ・ 毎月15日号回覧で利用案内及び運行日のチラシを世帯配布。
- ・ 台風15号の影響により、秋葉線一ノ瀬バス停から気多バス停間が運休停止となったため、秋葉線バス停(乙丸バス停、船場入口バス停、田能入口バス停)についても、10月号回覧案内からバス停として追加。(秋葉線運休期間に1名利用(乙丸バス停))
- ・ 令和5年1月の特定非営利活動法人やまゆり三倉理事会で現状について報告。

【現状報告】

利用実績が令和5年1月末時点で3名(実利用者2名)。実利用者の1名は、台風15号の影響で秋葉線が運休となったため利用されている。

アンケート結果で「すぐに使いたい」と答えた人が9人であり、今後の乗車人数が大きく伸びていくことは考えにくい。

令和6年度以降の運行継続については、現時点では難しいと考えており、特定非営利活動法人やまゆり三倉総会で「継続不可」の報告を行う予定である。

ご利用案内

令和4年10月から 試験運行スタート!!

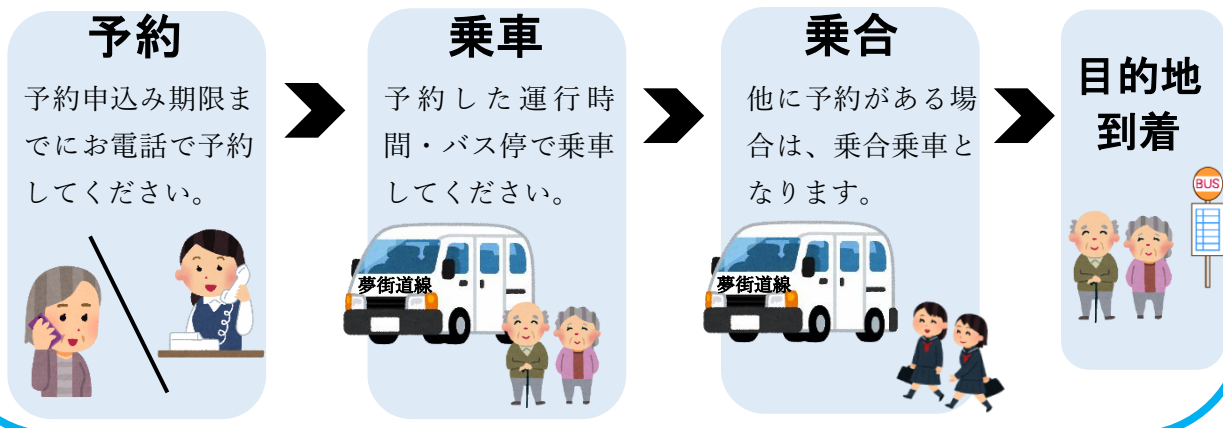
夢街道線



地域住民無料送迎バス【デマンド型】

デマンド型とは？

運行する日時【運行時刻】と乗り降りできる場所【バス停】が決まっています。予約申込み期限までに電話予約をして、予約したバス停から乗車できます。予約があった場合のみ運行し、予約がないバス停は停まりません。



運行日

森中学校登校日

- ※ 土日祝日や夏休み期間等の学校休校日は運行しません。
- ※ 運行日については、回覧でお知らせします。(10月の運行日は裏面に掲載)

予約

予約はこちら

☎ 0538-86-0211 (平日のみ)

予約先：NPO 法人やまゆり三倉(森町森林組合内)

予約方法

- ① 町内会・名前・電話番号 をつたえる
- ② 日にち・乗車したい運行時間 をつたえる
- ③ 乗るバス停と降りるバス停 をつたえる

予約申込期限

- ・ 9時までの便 … 前日の17時まで
- ・ 9時以降17時30分までの便 … 運行時刻の1時間前まで
- ・ 17時30分以降の便 … 当日の16時30分まで

運賃

試験運行期間（令和6年3月まで）：**無料**

バス停（大久保町内会）

町内会
バス停

- ① 旧久保田商店前（バス停番号4）
- ② 大久保公民館前（バス停番号5）
- ③ 大久保南（バス停番号6）
- ④ 榎（つが）の木南（バス停番号7）

※バス停ポール等の設置はありません。
分かりやすい場所でお待ちください。

バス停の場所は
【裏面】
をご覧ください

目的地
バス停

- ① 森林組合前バス停
- ② 三倉バス停（三倉郵便局前）
- ③ 一ノ瀬バス停

夢街道線運行時刻表

町内会バス停（旧久保田商店前、大久保公民館前、大久保南、榎の木南） → 目的地バス停

発車
時刻

| | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|
| 1便 | 2便 | 3便 | 4便 | 5便 |
| 6:51 | 8:56 | 15:27 | 16:21 | 17:11 |

目的地バス停（森林組合前バス停、三倉バス停、一ノ瀬バス停） → 町内会バス停

発車
時刻

| | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1便 | 2便 | 3便 | 4便 | 5便 | 6便 |
| 7:55 | 12:27 | 14:59 | 15:59 | 16:43 | 17:50 |

- ※ 最初の利用者の発車時刻です。
- ※ 同じ運行時刻に予約があった場合は、バス停を順番に運行するため、予約したバス停に到着する時間が遅くなります。（最大で約20分程度遅くなります）

10月
夢街道線
運行日

| 10月夢街道線運行日 | | | | は運行日 | | |
|------------|----|----|----|------|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 23 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

お問い合わせ先：森町役場企画財政課企画係 0538-85-6305

【大久保町内会 利用バス停】

